珠々の詰連珠（3）

五段　真野　芳久著

東海連珠会

目次

0	**各章のテーマについて**	7
1	**ゼロ手の詰連珠**	13
2	**一手の詰連珠**	19
3	**三手の詰連珠**	43
4	**長めの詰連珠**	73
5	**序盤の詰連珠**	89
6	**ひとめの詰連珠**	95
7	**逆転の詰連珠**	103
8	**六路の詰連珠**	111

本冊子に関する情報は、東海連珠会ホームページ(*) の “連珠資料” 内でご覧頂けます。

(*) http://tokai-renjukai.pya.jp/

はじめに

五目並べとも呼ばれる**連珠**(れんじゅ)は、15 × 15 の連珠盤と碁石を使って先に五つ並べた方を勝ちとする盤ゲームで、幅広い世代で気楽に、そして名人戦や世界選手権等で真剣に楽しまれています。対戦での最後は、三や四等の攻め手で相手に防ぎを強要しながら、五や四三等の勝ち形を作ることになりますが、その部分だけを問題として抜き出して一人でも楽しめるようにしたのが**詰連珠**(つめれんじゅ)です。

筆者は東海連珠会ホームページ (`http://tokai-renjukai.pya.jp/`) の “詰連珠コーナー” 等で易しめの詰連珠問題を発表していますが、ここではそれらの問題に新作も加え、種々のテーマの下で編集した形で紹介します。“種々の” をもじって冊子のタイトルを “珠々の” としていますが、ご容赦下さい。“珠々の” のテーマの一覧は目次でご覧頂けますが、それらのいくらか詳細な説明は 0 章「各章のテーマについて」にあります。

どのテーマの詰連珠でも、易しめの問題を選んでいますが、実戦でも役立つ手順や詰めの感覚を養ってくれる手順などの点から、いくらか難しめの問題も

含めています。各章は、筆者の主観ではありますが、易しめの問題から難しめの問題に順に並ぶようにしています。

詰連珠では勝利形直前の四追いは一手と数えますが、四追いと明示した問題を除き、易しめの問題とするために最後の四追いは、変化図も含め (容易な勝ち筋もある弱防の場合を除きます)、高々 4 回、多くは 2 回か 3 回までのものとしています。また、防ぎの変化の少ないものを選んでいます。

“詰連珠” と称する以上、技量の上達に役立つ何らかの教訓的な手順が含まれています。その教訓が明確になるよう、解に関係しない石はできるだけ省く方針で作っていますが、作り物っぽくなるのを避け実戦の局面の一部として現われてもよい形になるようにも問題を作っています。

不詰め[*1]はもちろん余詰め[*2]もないように作っていますが、もし不都合の点を見つけられた場合は、筆者まで連絡して頂ければ幸いです。

[*1] 攻め手に勝ちとなる手順のない問題。

[*2] 出題者の用意した手順以外でも、攻め手に勝ち手順のある問題。手順前後のように同趣旨の異なる勝ち手順は、許される範囲内とみなされます。

連珠の基本用語

連珠に馴染みのない方のために、連珠の基本用語を簡潔に説明しておきます。

五（ごれん）：縦・横・斜めに同色の石が丁度 5 個並んだもの。五連とも言います。黒・白とも勝ち です。

禁手（きんて）：反則手。打つと (相手の四や三等を防ぐためでも) 負けです。

長連（ちょうれん）：縦・横・斜めに同色の石が 6 個以上並んだもの。黒は禁手 ですが、白は勝ち です。

四：1 個の石の追加で五 (白の場合は長連を含む) となるもの。

達四（たつし）：四で、五にする場所が 2 つあるもの。**棒四**（ぼうし）とも言います。

三：1 個の石の追加で達四となるもの。

三々（さんさん）：着手点を共通点として同時にできる 2 つの三。黒は禁手 です。

四々（ししし）：同時にできる 2 つの四。黒は禁手 です。

四三（しさん）：同時にできる四と三。

先手（せんて）：黒のこと。時に、新たな戦いの場に先に打つ側のこと。

後手（ごて）：白のこと。時に、新たな戦いの場に後に打つ側のこと。

ミセ手：次に四三 (白の場合は四々も含む) を作るぞ、と打つ手。

四追い（しお）：四の連続で打つこと。四追い勝ちは、四追いで勝つこと。

フクミ手：次に四追いで勝つぞ、と打つ手。

追い手（おて）：三を作る (**ヒク**) 手・四を作る (**ノビル**) 手・ミセ手・フクミ手の総称。

防ぎ手：追い手に対して五を作らせないように打つ手。三や四に対して防ぐことを**止める**とも言います。

追詰め（おいづ）：追い手の連続で勝ちを導くこと。**追勝ち**（おいが）とも言います。

長連筋（ちょうれんすじ）：直線状に並び間に空点のある 3 つ以上の同色の石群で、空点を同色の色で埋めた時に長連になるもの、またその状態。

ノリ手　：追い手になっている防ぎ手、または相手の四追い中に四ができる防ぎ手。

ノリ切り　：相手の四の中にある空点に防ぐことで四になること。

ノリ押さえ　：相手の四を端に防ぐ手が四になること。

剣先（けんさき）　：四ノビをできる場所。

夏止め（なつど）　：○・●●●・○ のように、両端が空点の三連で、空点の先に敵石 (または盤端) があり、三でない状態。

長連筋の夏止め：黒の三連で、○・●●●・・● のように、2 つの空点の先に黒石があって、三になっていない状態。

四ノビ無効　：その四を止めると新たな追い手が生じ、以前の追い手を加えたすべての追い手を防ぐ手段がないこと。

本冊子で使っている記法

●	：	天元の位置 (盤の中央) にある黒石。
1 後 A	：	攻め手側の着手 1 に対し、どのように防いでも A として勝ちとなることを示します。
(イロハ)	：	丸括弧で囲むことで四追いであることを示します。
＃	：	これに続く文は、正解手の補足説明です。
※	：	これに続く文は、失敗手の説明です。

本冊子は [*1]、[*2] の続編です。

[*1] 真野芳久：「珠々の詰連珠 (1)」、東海連珠会, 2017.11。
[*2] 真野芳久：「珠々の詰連珠 (2)」、東海連珠会, 2018.12。

0　各章のテーマについて

各章で扱っている詰連珠のテーマについての説明です。

0.1　ゼロ手の詰連珠

勝ちを確定的にする勝利形として、四三、(白の) 四々や三々、黒の復活三々[*3]、黒に禁手を打たせる白の四や三があります。これらの勝利形を直ちに作ることができる局面では、既に勝ちが用意されていると言えます。また、四追いでの勝ちも、防ぎ手に考えさせることなく、従って防ぎの変化を検討する必要もなく勝ちを作ることのできるので、この場合も勝ちが用意されていると言えます。

「ゼロ手の詰連珠」の章では、何の準備もなく (ゼロ手の準備で)、直ちに勝利形を作ることのできる問題、四追いで勝ちとなる四追い問題を扱います。

[*3] 三に見えるが禁手の関係で三でない筋を、禁点解消で三にする三。

0.2　一手の詰連珠

“一手の” の意味は、詰連珠の解答に見られる ‘黒 1 後 A または B の四三勝ち’ や ‘白 1 後 (イロ) で X 点三々禁’ 等のように、“一手打つと次の手で明白な勝利形が確実にできる” という意味です。詰連珠としては “3 珠打上げ” の問題となりますが、“白の三々勝ち” や “三による禁手狙い” も勝利形として含めたいこと、容易な問題クラスであることを強調したいことのために敢えてこのように命名しています。

既に「一手の詰連珠」と題する小冊子 [*3] を出しています。興味のある方はそちらもご覧下さい。

0.3　三手の詰連珠

詰連珠の解答にある ‘黒 3 後 A または (イロハ) の四三勝ち’ や ‘白 3 後 A にて X 点三々禁’ のように、攻め手側の 2 手目を打った時に確実に勝ちとなる状

況になる問題を集めています。詰連珠としては “5 珠打上げ” となりますが、確実な勝ちの状況として “白の三々勝ち” や “三による禁手狙い” の問題も含めています。

「一手の……」では実現できない様々な趣旨の易しめの詰連珠が可能で、「一手の……」を卒業された初級者の方はこのクラスの問題を多く解いてみることをお勧めします。本小冊子でも最も多くの問題を載せています。

0.4　長めの詰連珠

「三手の詰連珠」よりは “長め” の詰連珠問題を集めています。“長め” とは言え、‘黒 5 後、……’ あるいは ‘白 7 後、……’ のように「五手の詰連珠」あるいは「七手の詰連珠」に相当する問題に限っています。好手・好防が織り交ざった実戦にも役立つ手順を含む問題が多く、手筋を学び読む力を養う良い練習問題になっています。

0.5　序盤の詰連珠

黒も白も攻めの拠点となる好形を目指します。黒が先着していますので、序盤での白の緩い手はいっきに黒勝ちの形にすることがあります。一方、序盤での黒の一見 “好形” は逆に三々禁の卵でもあります。開局規定によってはこれまでに見たこともない序盤が出現することもあり、黒も白も三々禁への注意を払って打つ必要があります。この章では黒石が 6 個以内の序盤における問題を集めています。白先では主に三々禁に絡んだ問題ですが、そうでないものも含まれています。

0.6　ひとめの詰連珠

ある種の局面を上級者が見ると、“ひとめ” で初手の着手場所あるいは最終の勝ち形がひらめき、追詰めの有無を直感的に判断できることがあります。ただし、すべての変化も含め最後の勝ちまで読み切ることは即座にというわけでは

なく十分な時間が必要でしょう。

この章には、完成までの手数は様々ですが、そのような局面の問題を集めています。追詰めを可能とする好手を見つけるセンスを養うことができます。初手が分かっても追詰めを完全に示すにはすぐれた読みの力が必要です。読みによって間違いなく追詰めがあることを確認する訓練もできるでしょう。

0.7　逆転の詰連珠

相手の勝ちになっているように見える絶体絶命の局面にもかかわらず、起死回生の好手によって逆転の勝ちにもっていける問題を集めています。相手は直ちにあるいは四追いで四三を作ることができそうであったり、相手の禁手狙いが成功しそうであったりします。このような危険な局面から脱却し、逆に勝ちにもっていくための手筋を見ることができます。そこではノリ手・ノリ返しの手筋や、禁手に絡む連珠の法則の応用などが出てきます。

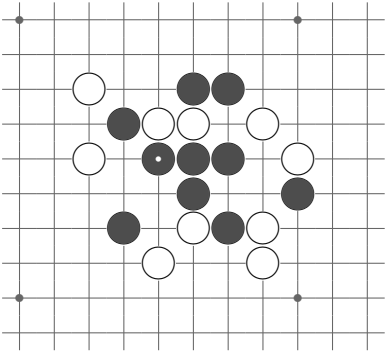
0.8　六路の詰連珠

複雑な問題領域に対して性質を損なうことなく小さくすることは、考え方を容易にし本質を見やすくする効果があります。詰連珠を成立させる最小の盤は六路です (五路では三を作れません)。六路という小さな世界でありながら、詰連珠の本質的な面白さを十分に楽しむ問題が多く作られています。既に六路盤詰連珠の小冊子 [*4] を出していますが、この章ではそれ以降に作られた問題を集めています。

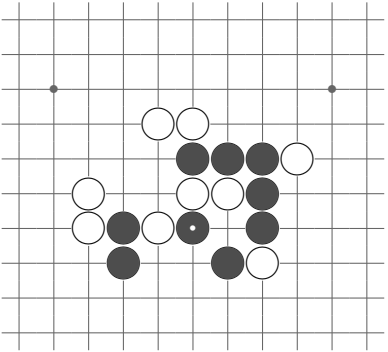
[*3] 真野芳久：「一手の詰連珠」、東海連珠会, 2014.9。
[*4] 真野芳久：「六路盤詰連珠作品集 1〜5」、東海連珠会, 2011.11〜2012.12。

これらの小冊子は、本冊子と同様に、東海連珠会ホームページの連珠資料のページから pdf ファイルとして入手可能です。

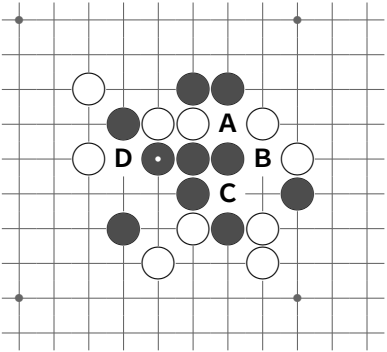
1　ゼロ手の詰連珠



【問 1-1：黒先】次の手で四三を作っての勝ちがありますが、どこでしょうか。

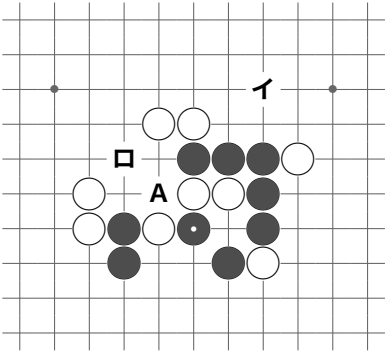


【問 1-2：黒先】四三々の点があります。



【問 1-1】黒 A で四三を作って勝ちとなります。B 点が四々で打てないので、四三々でなく四三です。

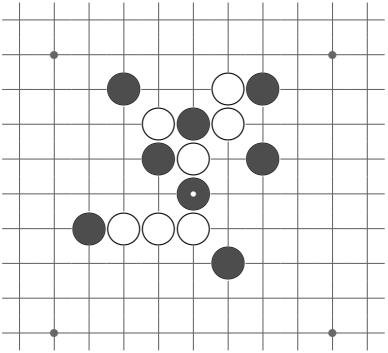
※ B は A が四々で打てないので、単なる四です。C と D は四三ですが、ノリ手があるため勝てません。



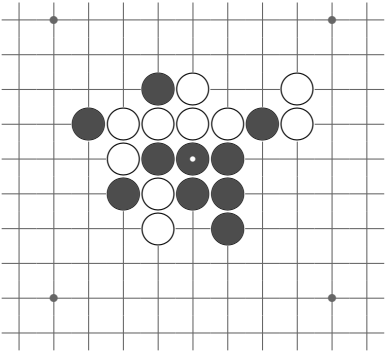
【問 1-2】黒 (イロ) の四三勝ち。

ロとした時、A 点が四々のため斜めは三でありません。

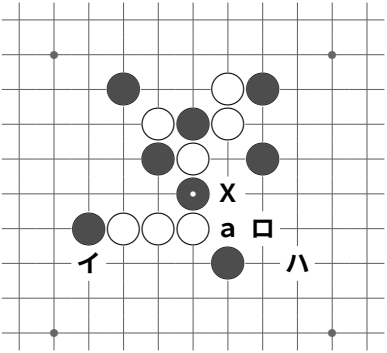
※ (イ A) での四三はノラれています。



【問 1-3：白先】禁手にします。

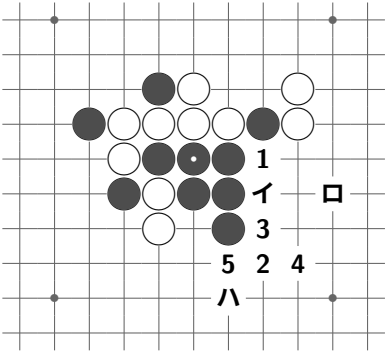


【問 1-4：黒先】四追いで勝って下さい。



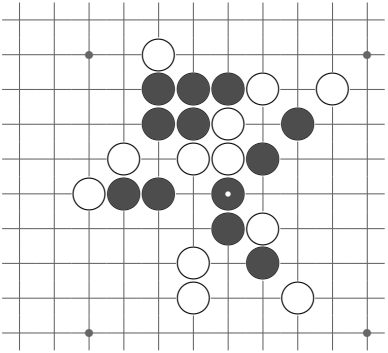
【問 1-3】白 (イロハ) で X 点三々禁。

※ 初手で X は黒 a と止められます。

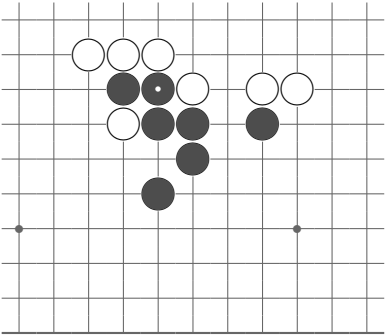


【問 1-4】黒 1〜5 の四追いで四三勝ち。

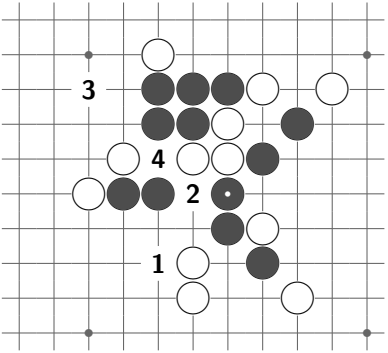
※ (1 2 イロハ) は、ロの時に白に達四ができます。



【問 1-5：黒先】四々禁を狙われています。

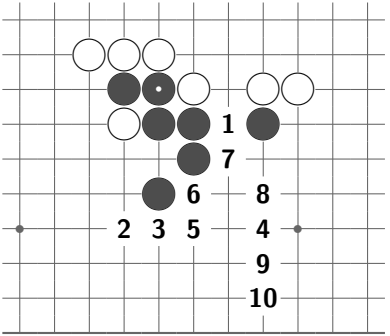


【問 1-6：黒先】四追いで勝って下さい。下の方に展開していきます。



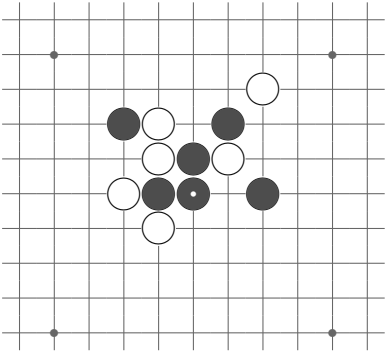
【問 1-5】黒 1〜4 で達四勝ち。

四々の一方の四を、長連筋の形にして、四々禁を解除しています。

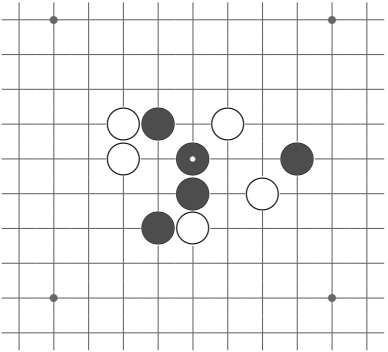


【問 1-6】黒 1〜10 の四追いで四三勝ち。

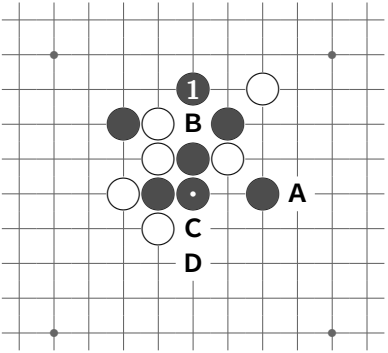
2　一手の詰連珠



【問 2-1：黒先】相手に三ができても怖くありません。

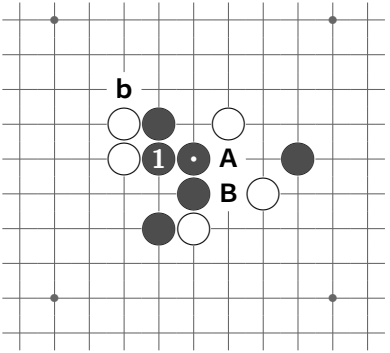


【問 2-2：黒先】どのように三をヒクか間違えないように。



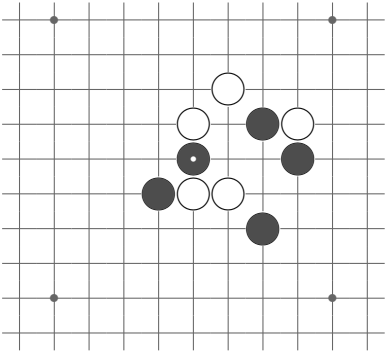
【問 2-1】黒 1 後、A の四三勝ち。

※ 初手で B は白 1 と、C や D は白 B と止められます。

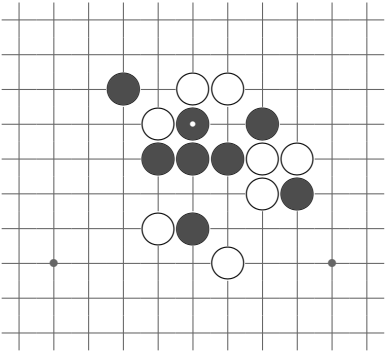


【問 2-2】黒 1 後、A の四三勝ち。

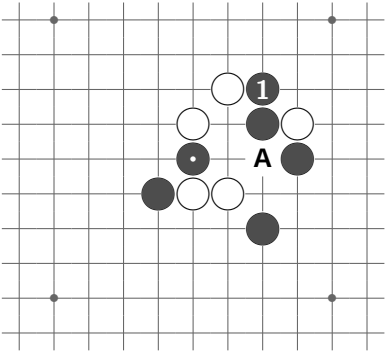
※ 初手で A は三々禁で、反則負けです。初手で B や b は、次の狙いもなく、それぞれ白 b や B に止められて勝てなくなります。



【問 2-3：黒先】三々の点がありますが、うまく利用します。

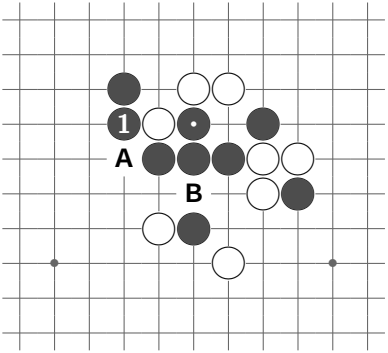


【問 2-4：黒先】一手で決めます。



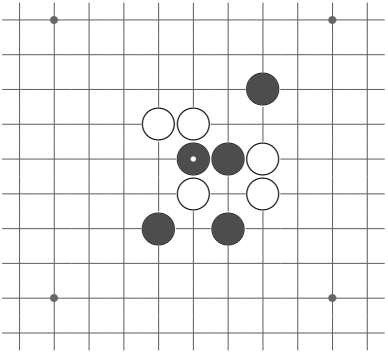
【問 2-3】黒 1 後、A の四三勝ち。

初手で A は三々の禁手ですが、『三々は四三の卵』と言われます。

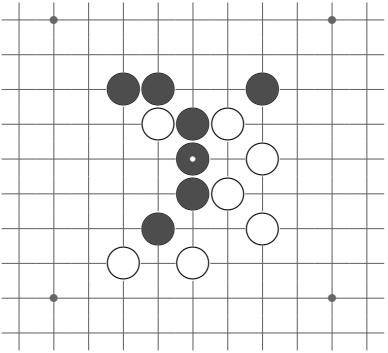


【問 2-4】黒 1 後、A または B の四三勝ち。

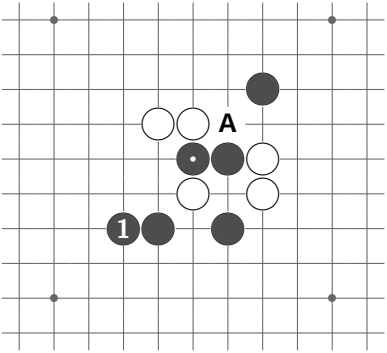
※ A・1 とヒイていくと、また B と四ノビをすると、ノラれます。



【問 2-5：黒先】狙われている三々の点を利用します。

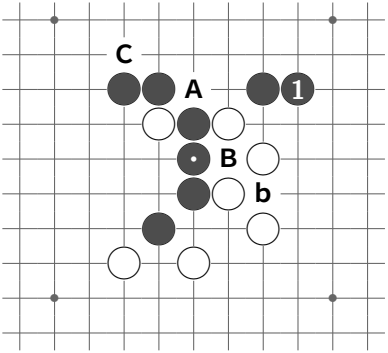


【問 2-6：黒先】縦を達四にできれば簡単なのですが。



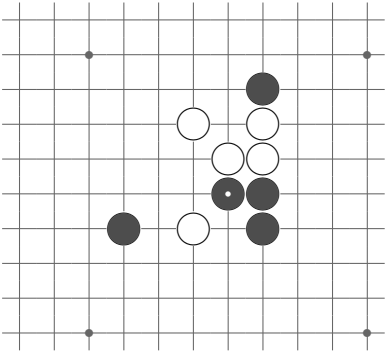
【問 2-5】黒 1 後、A の四三勝ち。

＃“四三の卵” があれば孵化させる方法を考えましょう。

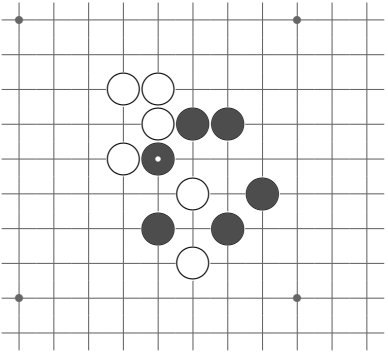


【問 2-6】黒 1 後、A の達四勝ち、または B の四三勝ち。

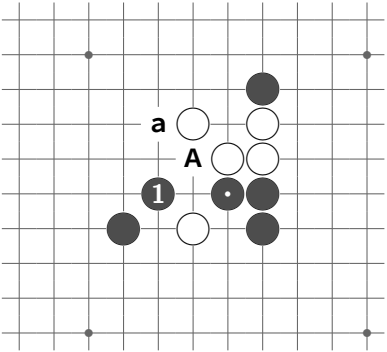
※ 初手で B は白 b と、C は白 B と止められます。



【問 2-7：黒先】正解は 1 つ。

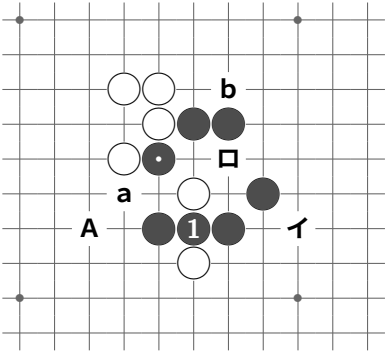


【問 2-8：黒先】いくつか候補はありますが…。



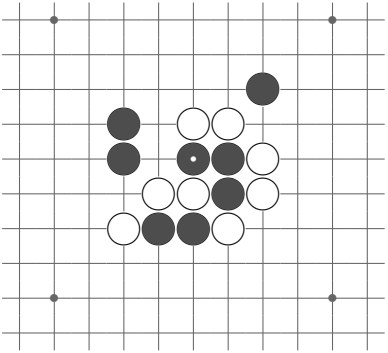
【問 2-7】黒 1 後、A の四三勝ち。

※ 初手で A は、白 a と止められます。

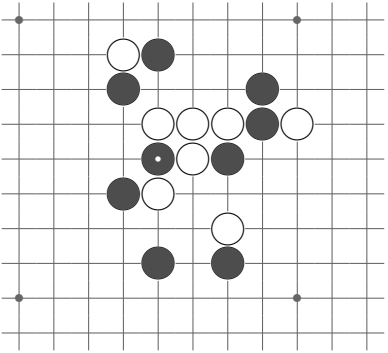


【問 2-8】黒 1 後、白の止め方に応じて、A または (イロ) の四三勝ち。

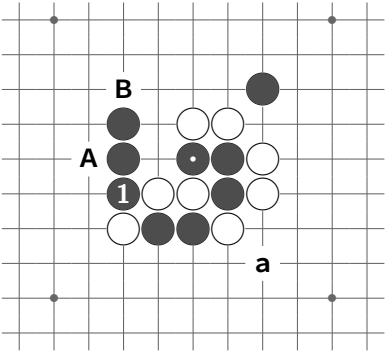
※ 初手で A は、白 a または b と止められます。初手で a、イまたはロは、白 b と防がれます。



【問 2-9：黒先】好手で決まり。

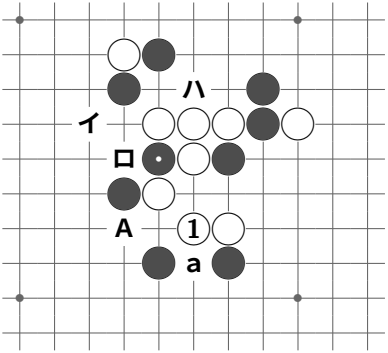


【問 2-10：白先】黒の防ぎにも注意を払って下さい。



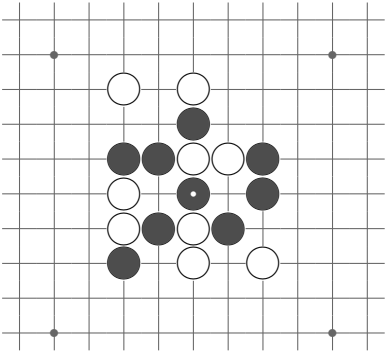
【問 2-9】黒 1 後、A または B の四三勝ち。

※ A・1 とヒイていくと、白に a の四三が残り失敗です。

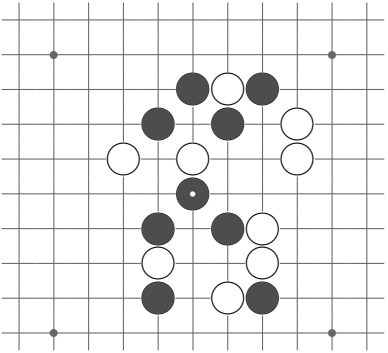


【問 2-10】白 1 後、A または (イロハ) の四三勝ち。

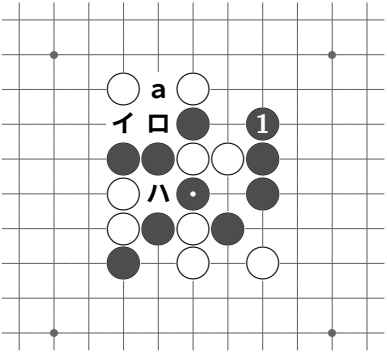
＃ A の四三をノリ手で防ぐ白 a への対処を忘れないように。



【問 2-11：黒先】ノラれないように打ちます。

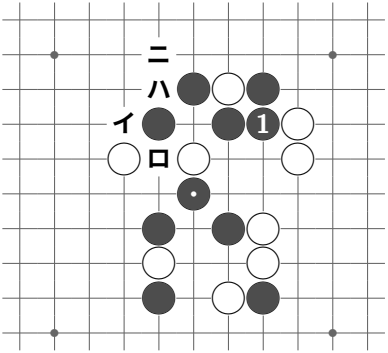


【問 2-12：黒先】ノラれないように。



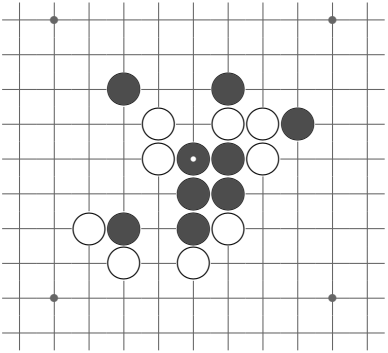
【問 2-11】黒 1 後、(イロ) の四三勝ち、または (イロハ) のノリ切り達四勝ち。

※ 初手でロは白 a とノリ手で止められます。

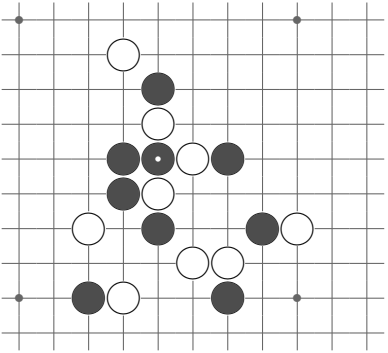


【問 2-12】黒 1 後、(イロハニ) の四三勝ち。

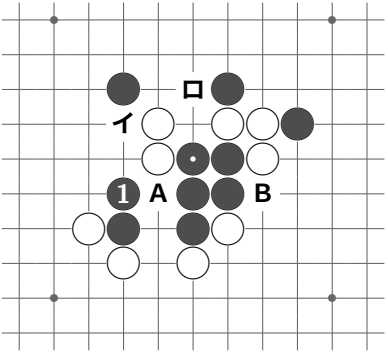
※ 初手でイやロは、白 1 と防がれます。



【問 2-13：黒先】黒には四三の点がありますが、ノラれています。



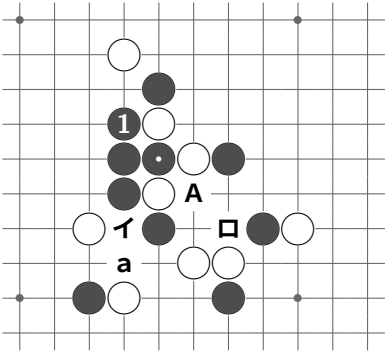
【問 2-14：黒先】勝ちを確信するために、白の防ぎをすべて考えます。



【問 2-13】黒 1 後、(イロ) の四三勝ち。白の四ノビは無効。

※ 初手でイは、白 1 の好防があります。初手からロ・イとするのは白に 1 と四ノビされます。初手で A や B は、白の四追いで四々禁になります。

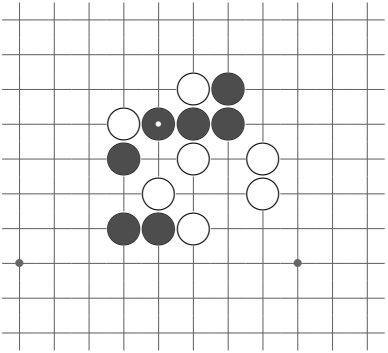
正解手以外は白勝ちになります。



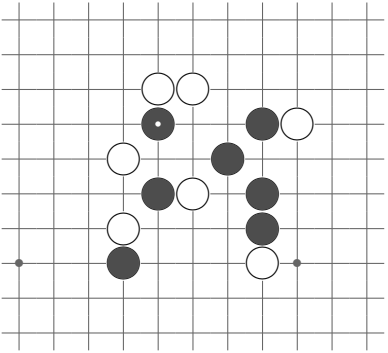
【問 2-14】黒 1 後、A または (イロ) の四三勝ち。

黒 1 には白 a の夏止めもあります。白 a への対処も忘れないように。

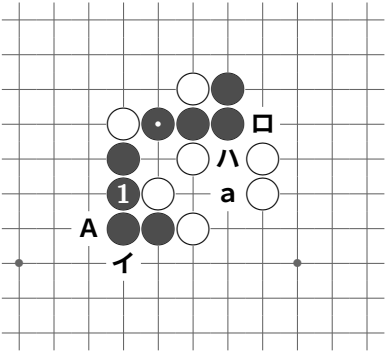
※ 初手でイは白 1 と、ロは白 A または 1 と止められます。



【問 2-15：黒先】簡単に考えるとノラれます。

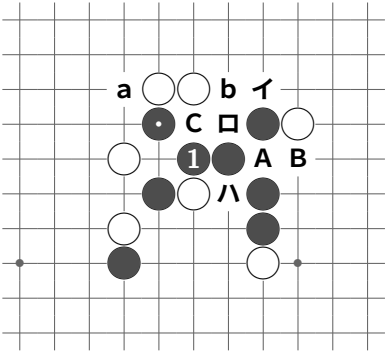


【問 2-16：黒先】簡単に考えすぎてはいけません。



【問 2-15】黒 1 後、(イロハ) の四三勝ち。

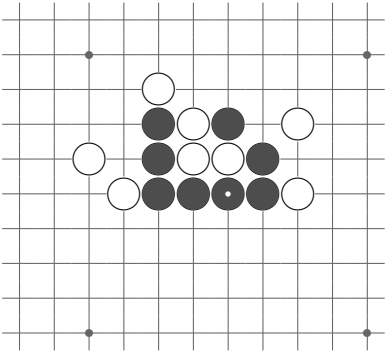
※ ハ後ロ、イ後 '1 または (ロハ)'、そして A のフクミ手は、いずれも白 a のノリ手で防がれます。



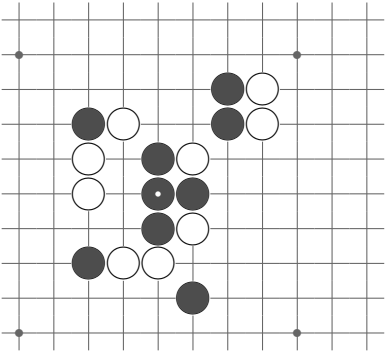
【問 2-16】黒 1 後、A または (イロハ) の四三勝ち。

白 2 では A の四三をノル a が強防ですが、四追いがあります。

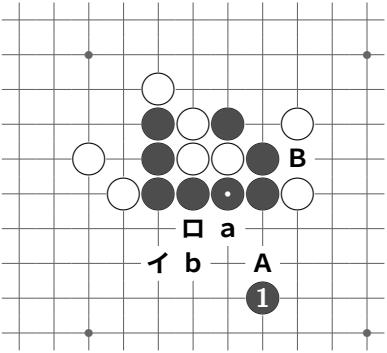
※ 初手で B は、白に 1 または b と防がれます。初手で C やロのフクミ手は、白にハ等に防がれます。



【問 2-17：黒先】好手で決めます。

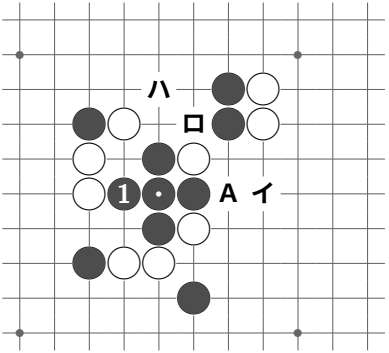


【問 2-18：黒先】ノラれたら？



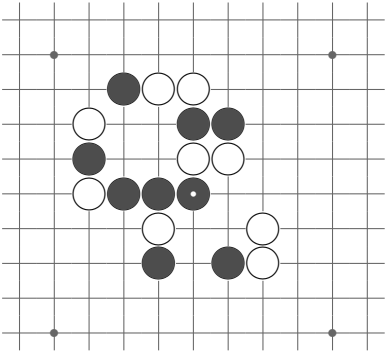
【問 2-17】黒 1 後、A または (イロ) の四三勝ち。

※ 初手から a・b と進めても白 A・B と止められます。

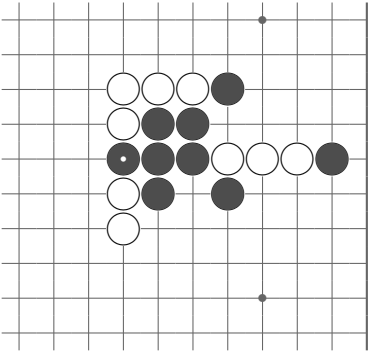


【問 2-18】黒 1 後、A または (イロハ) の四三勝ち。

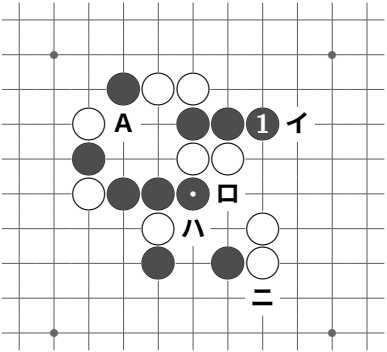
※ 初手でロは、白 1 と止められます。



【問 2-19：黒先】1 手打って四追いです。

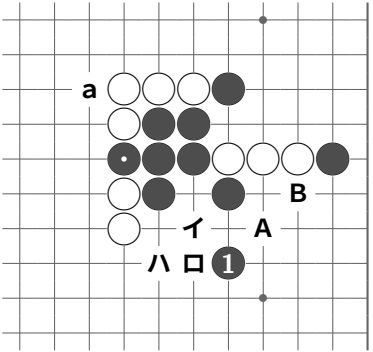


【問 2-20：黒先】攻防の急所の点に打ちます。



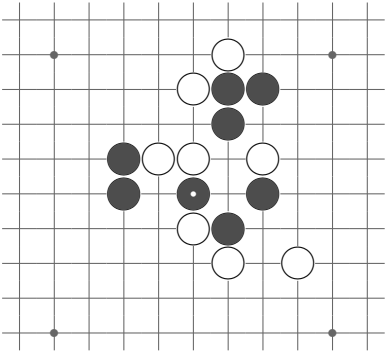
【問 2-19】黒 1 後、A の四三勝ちまたは (イロハニ) のノリ押さえ達四勝ち。

※ 初手でハは、白ニと止められます。

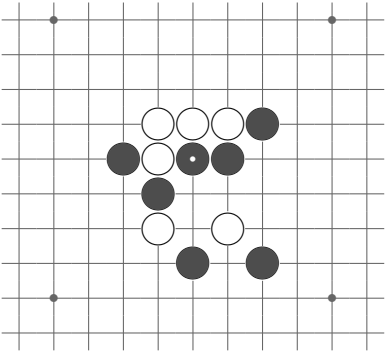


【問 2-20】黒 1 後、A または (イロハ) の四三勝ち。白 a の四ノビは無効。

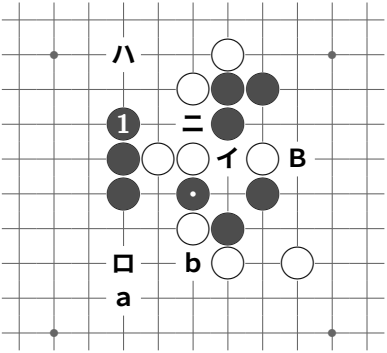
※ 初手で B、イまたはロには、急所の白 1 と防がれます。



【問 2-21：黒先】四々禁の点と白の三々の点が重なっており、簡単に考えると白勝ちになります。

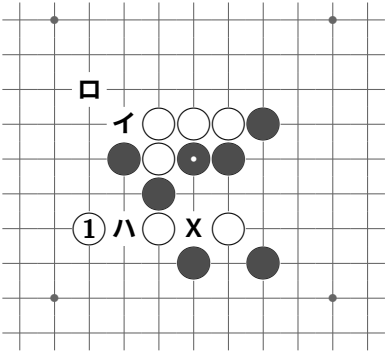


【問 2-22：白先】禁手の場所を見つけて下さい。



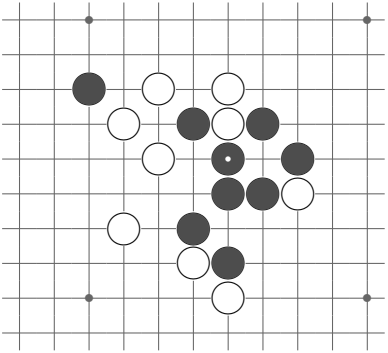
【問 2-21】黒 1 後、(イロ) または (イハニ) の四三勝ち。白の四ノビは無効。

※ 初手でロは白 a、B は白 b で白勝ちになります。

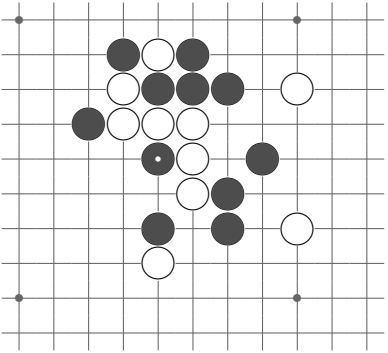


【問 2-22】白 1 後、(イロハ) で X 点四々禁。

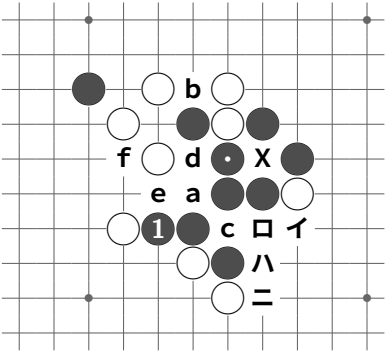
※ 先にイの四ノビをすると、黒に三ができて失敗です。



【問 2-23：黒先】三々々の点には打てそうにありません。



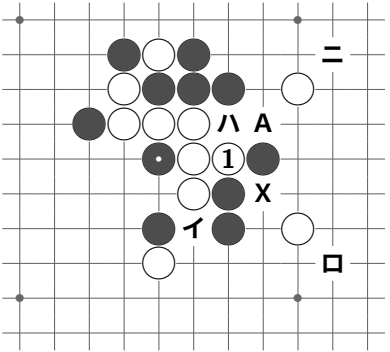
【問 2-24：白先】最後は禁手にします。



【問 2-23】黒 1 後、(イロハニ) の四三勝ち。

※ 初手でロ, ハ, a, b, c には白 1、d には白 b、e には白 f と止められます。

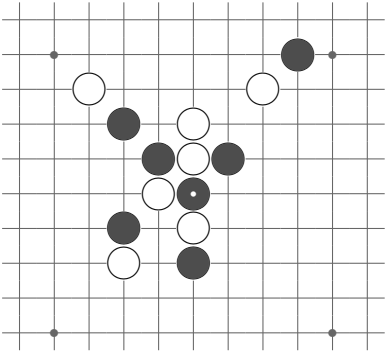
多くの候補がありますが、X 点に打てず 1 の点が急所となります。正解以外は勝ちになりません。



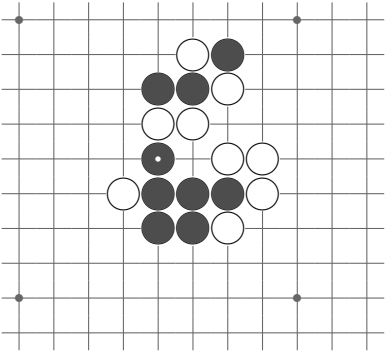
【問 2-24】白 1 後、A の四々勝ち、あるいは (イロ)、(ハイロ) または (ニイロ) で X 点三々禁。

白 1 の四々ミセが好手で、X の禁点を狙う剣先を作りつつ、黒に必ず A 点に打たせることができます。

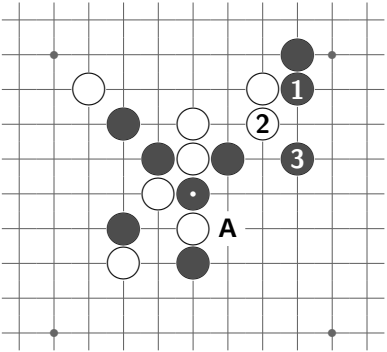
3　三手の詰連珠



【問 3-1：黒先】練習問題です。

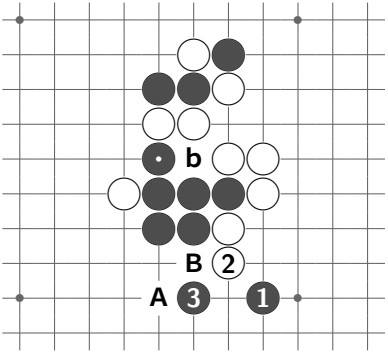


【問 3-2：黒先】白の反撃に注意しながら、四三を作る場所に目星をつけます。



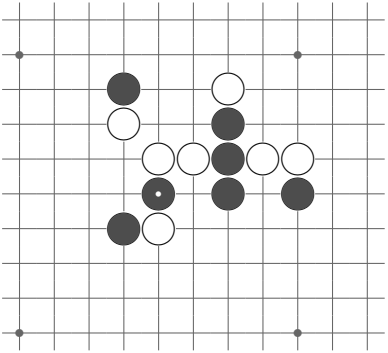
【問 3-1】黒 3 後、A の四三勝ち。
白 2 で他も同じ。

＃ トビ三の練習問題でした。

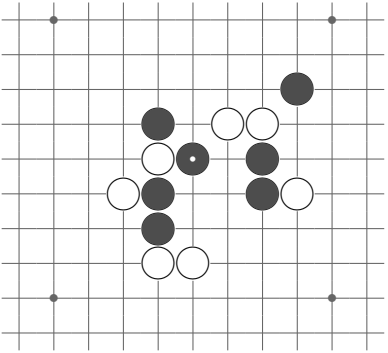


【問 3-2】黒 3 後、A の四三勝ち。
白 2 で他も同じ。

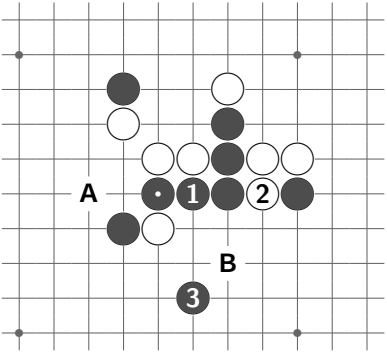
※ 初手で 2 は白 1 と、B は白 b と止められます。



【問 3-3：黒先】防ぎを考え、打つべきか打つべきでないか。



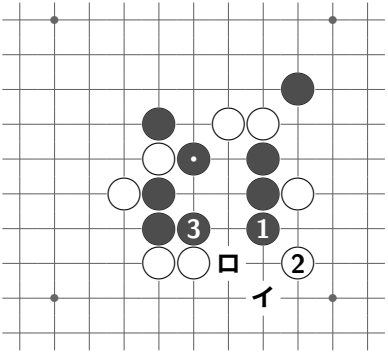
【問 3-4：黒先】素直に攻めていきます。



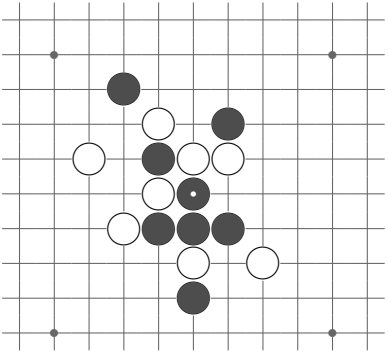
【問 3-3】黒 3 後、A または B の四三勝ち。

※ 初手で 3 は、白 1 と防がれます。

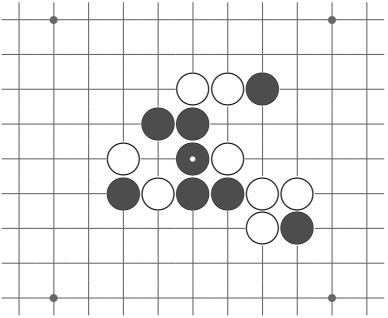
※ A や B の四を打つと勝てなくなります。



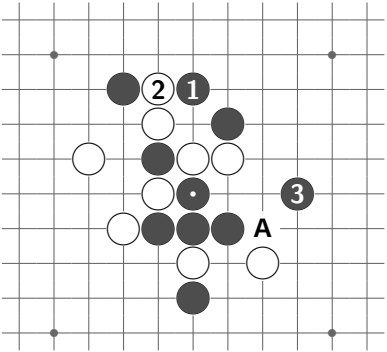
【問 3-4】黒 3 後、(イロ) のノリ切り達四勝ち。白 2 で他は、3 後イの四三勝ち。



【問 3-5：黒先】2 つの剣先を結び付けます。



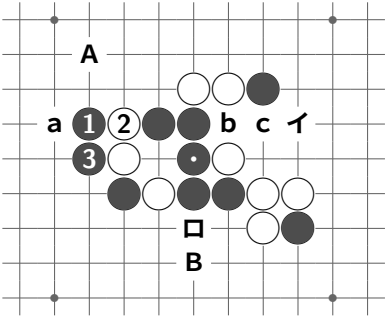
【問 3-6：黒先】防ぎの変化への対応も読み切って下さい。



【問 3-5】黒 3 後、A の四三勝ち。白 2 で他も同じ。

※ 初手で 3 は、白 A と防がれます。

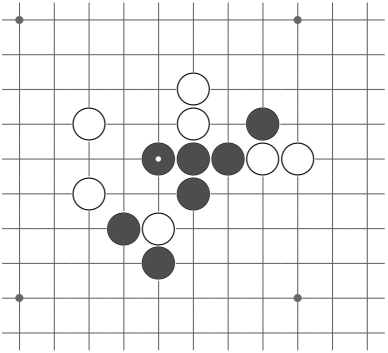
※ 先に四ノビをすると勝てなくなります。



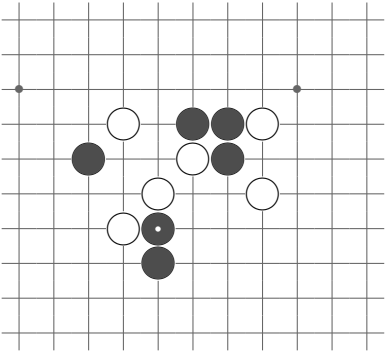
【問 3-6】黒 3 後、A または B の四三勝ち。白 2 で a は (b イロ)、b は (a B 3 A) の四三勝ち。

※ 先に四ノビをすると勝てません。

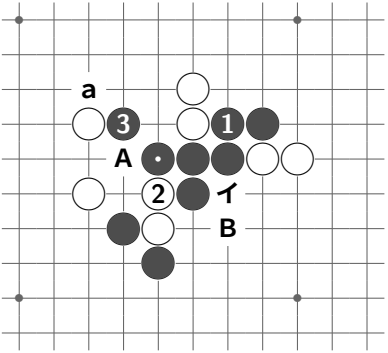
※ 最初に b は白 c と止められ、続いて 1・3 は白の四ノビで防がれます。



【問 3-7：黒先】ノリ手防ぎを避けます。



【問 3-8：黒先】柔軟な打ち方で。

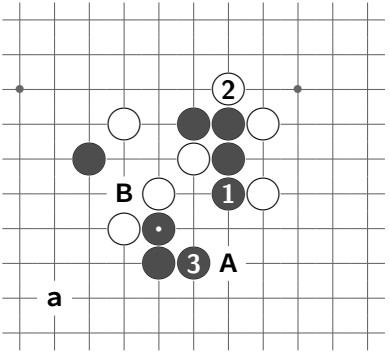


【問 3-7】黒 3 後、A または B の四三勝ち。白 2 で他は、イ後 2 の四三勝ち。

※ すぐの 3 には白 a の防ぎです。

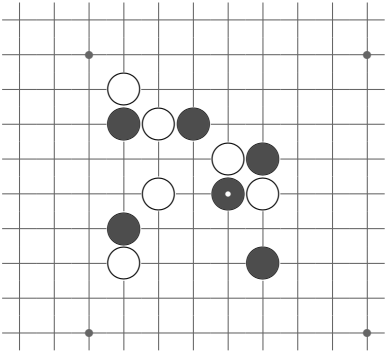
＃ 黒 1 と打っておくことで、黒 3・白 a には B 点での四三を用意します。

※ 初手で 2 は、白 1 です。

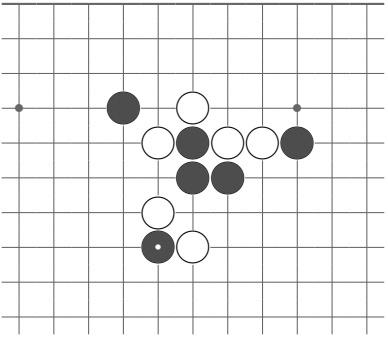


【問 3-8】黒 3 後、A の四三勝ち。白 2 反対は、B 後 2 の四三勝ち。白 2 の前に a の四ノビをするのは、(A 3) が残り、無効。

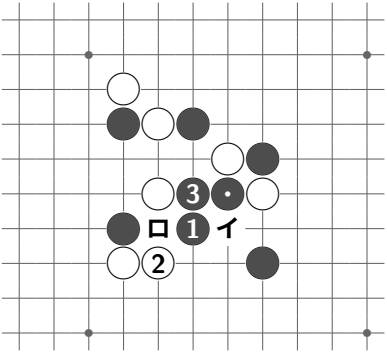
＃ 止め方に応じて次の三を変えます。



【問 3-9：黒先】三をヒイていきます。

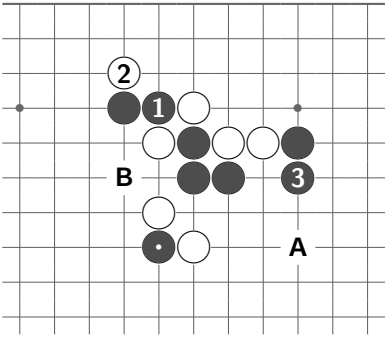


【問 3-10：黒先】両ニラミでいきましょう。



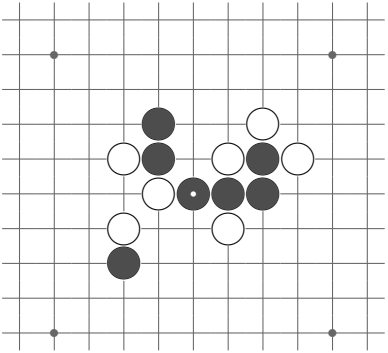
【問 3-9】黒 3 後、(イロ) のノリ切り達四勝ち。白の四ノビは無効。白 2 反対は、3 後イの四三勝ち。

＃ 白の四ノビを恐れない黒 3 が好手。

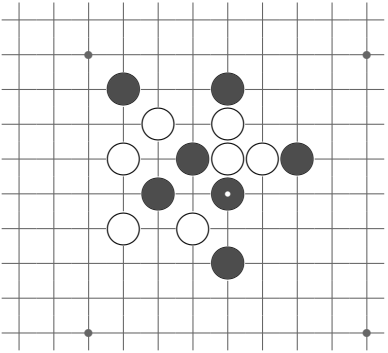


【問 3-10】黒 3 後、A の四三勝ち。白 2 で反対は、B 後 2 の四三勝ち。

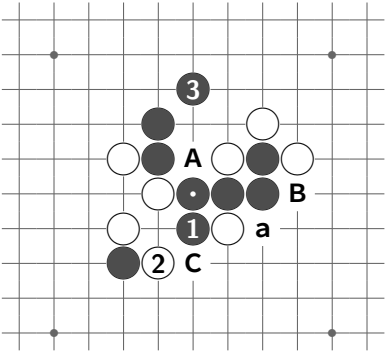
＃ 横の三をどちらにヒクかを保留しての黒 1 が好手です。



【問 3-11：黒先】うまく両ミセの形にもっていきます。

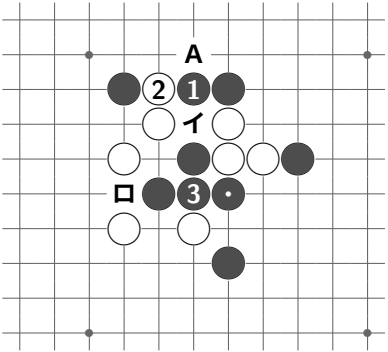


【問 3-12：黒先】早合点は禁物。



【問 3-11】黒 3 後、A または B の四三勝ち。白 2 で反対も同じ (‘C 後 2’ 等もあります)。

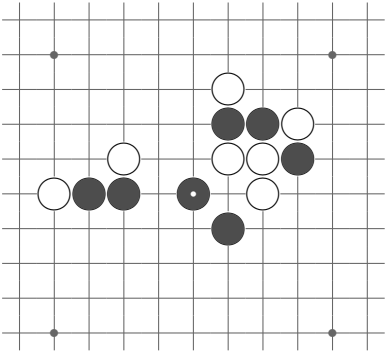
※ 初手で A は、白 a と止められます。



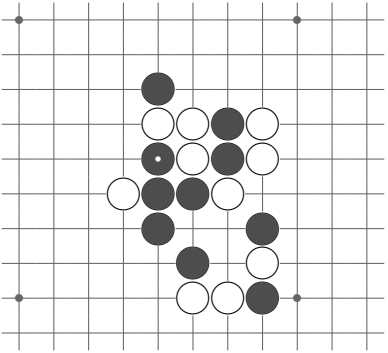
【問 3-12】黒 3 後、A または (イロ) の四三勝ち。白 2 で他は、3 後 A の四三勝ち。

白 4 の止め方に応じて最後の勝ち方を変えます。

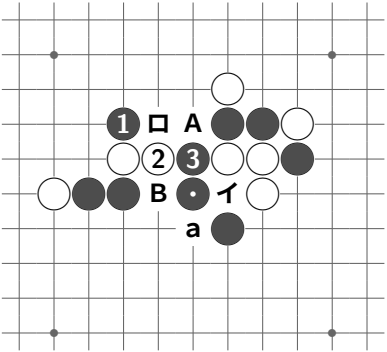
※ 初手で 3 は、白ロと止められます。



【問 3-13：黒先】ミセ手が決め手になります。



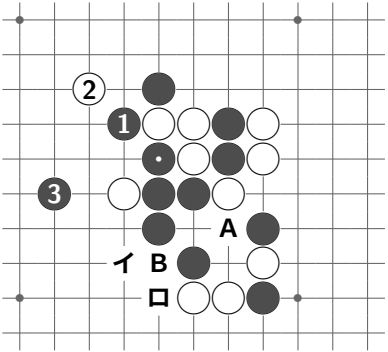
【問 3-14：黒先】正解は意外と単純な手順です。



【問 3-13】黒 3 後、A、B または (イロ) の四三勝ち。白 2 で他は、(B 2 ロ) の四三勝ち。

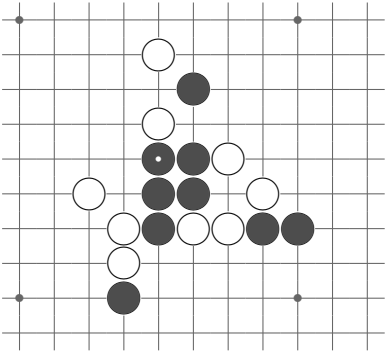
＃ 白 4 では a が最強の防ぎです。

※ 初手で 3、あるいは初手から A・白 1 後の 3 には白 a と防がれます。

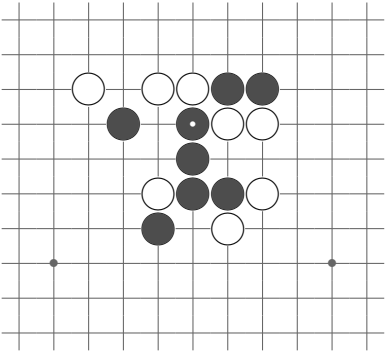


【問 3-14】黒 3 後、(イロ) の四三勝ち。白 2 で他も同じ。

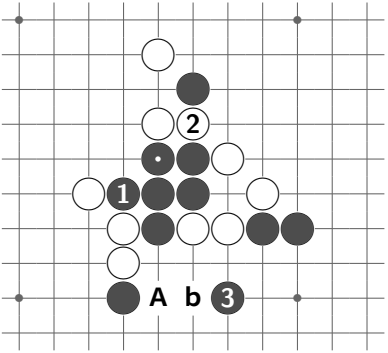
※ 初手から ‘A 後ロ’ や (B イ) はノラれています。



【問 3-15：黒先】上下に剣先があります。

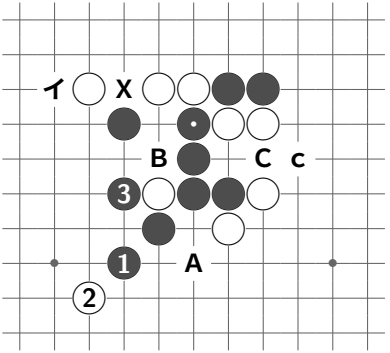


【問 3-16：黒先】簡単に考えると失敗します。



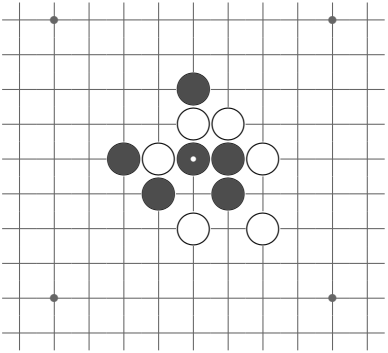
【問 3-15】黒 3 後、A の四三勝ち。
白 2 で他も同じ。

※ 初手で 3 は、白 b と防がれます。
※ 初手で 2 や A の四ノビをすると勝てなくなります。

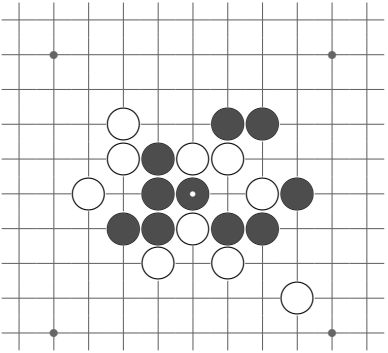


【問 3-16】黒 3 後、A の四三勝ち。
白 2 で反対も同じ。

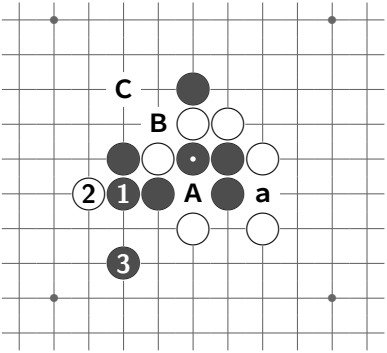
※ すぐの 3 は、白イで X 点三々禁。
＃ 黒 1 と打っておくことで、縦が長連筋で三々禁になりません。
※ 初手から B・C と進めても、白 c のノリ手防ぎがあります。



【問 3-17：黒先】止め方に応じて。

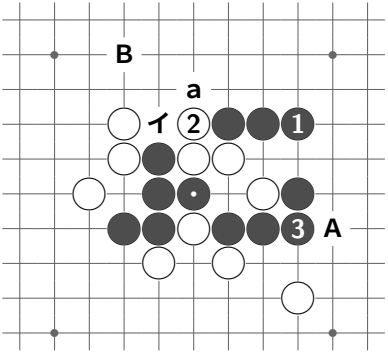


【問 3-18：黒先】難しくはありませんが、早とちりはいけません。



【問 3-17】黒 3 後、A の四三勝ち。白 2 で a は 2、A は B 後 C (C 後 B も可) の四三勝ち。

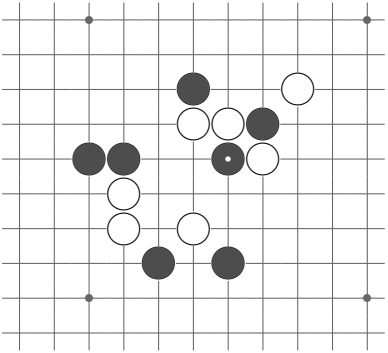
※ 初手で B は、白 2 と止められます。



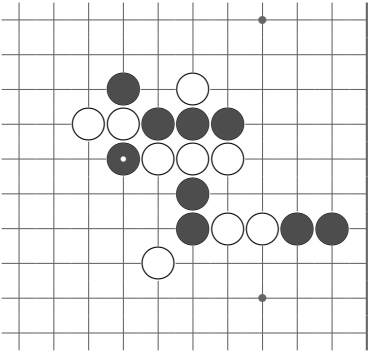
【問 3-18】黒 3 後、A の四三勝ち。白 2 で反対も同じ。

※ 初手で A は白 a と止められます (黒イ・1 の手順はノラれています)。

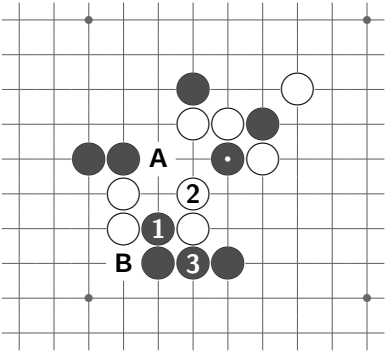
白 B の四三はノッており、心配ありません。



【問 3-19：黒先】初手は当然とも言える好手です。



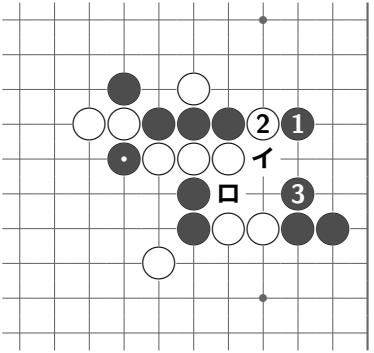
【問 3-20：黒先】あざやかに決めます。



【問 3-19】黒 3 後、A の四三勝ち。白 2 で他は、A、(2 A)、B の四三勝ち、または (B 3) のノリ押さえ達四勝ち。

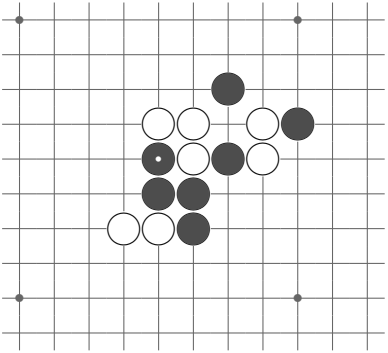
黒 1 の両ミセを防ぐ手は 2 か 3 です。いずれもノリ手を解除できます。

※ 初手で三や四を作ると勝てなくなります。

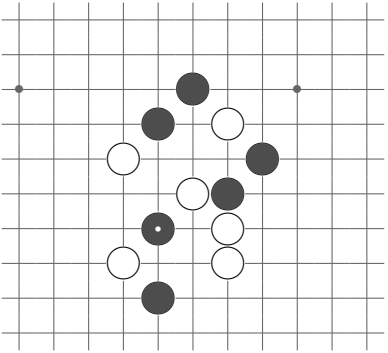


【問 3-20】黒 3 後、(イロ) の四三勝ち。

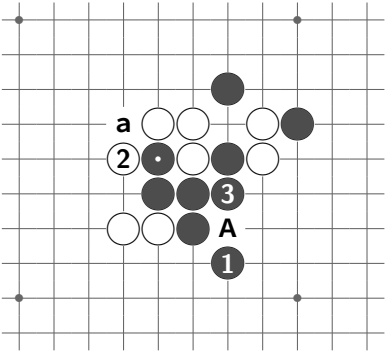
白に四三の点を作らせてノリ手で攻める華麗な技でした。



【問 3-21：黒先】三々の禁手は打ちません。



【問 3-22：黒先】決め手を間違えないように。

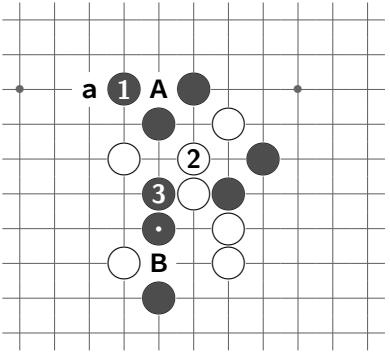


【問 3-21】黒 3 後、A の四三勝ち。白 2 反対も同じ。白の四ノビは無効。

＃ 黒 1 と縦を長連筋にして、禁点だった 3 の点に打てるようにしています。

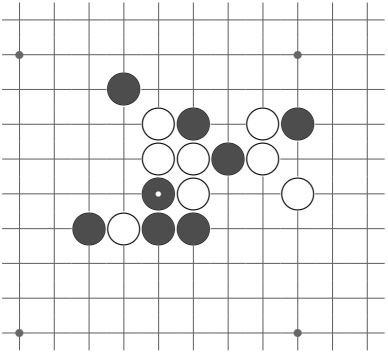
＃ 黒 3 は白の四三をノッてもいます。

※ 初手で A は、白 a で白勝ちです。

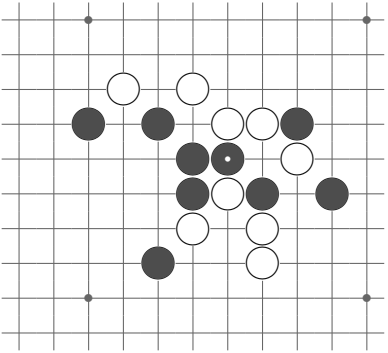


【問 3-22】黒 3 後、A または B の四三勝ち。白 2 で他も同じ。

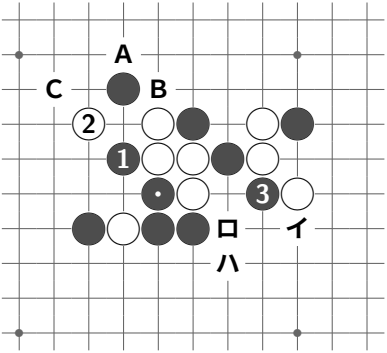
※ 3 で A は、白 a と止められ失敗です。



【問 3-23：黒先】単純に考えるとノリ手や四ノビで防がれます。手順の工夫が必要です。

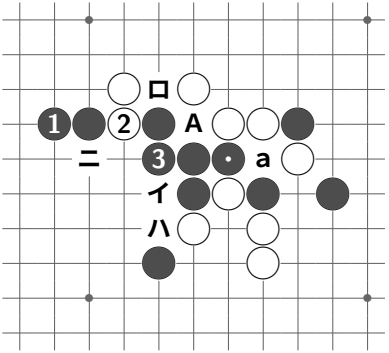


【問 3-24：黒先】ノラれることを見込んで…。



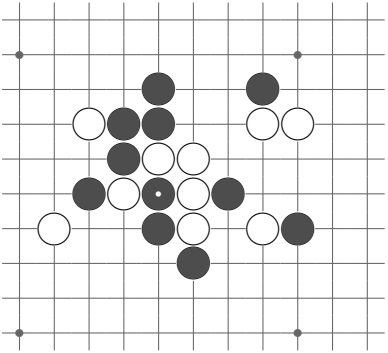
【問 3-23】黒 3 後、A または (イロハ) の四三勝ち。白 2 で反対は、B 後 C の四三勝ち。

※ 初手で 3 は白 B、ハは白 1 と止められます。

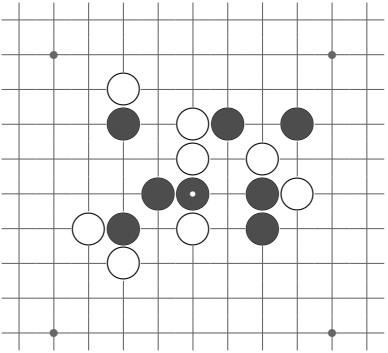


【問 3-24】黒 3 後、(イロ) または (ハニ) の四三勝ち。白 2 で他は、A または '3 後 2' の四三勝ち。

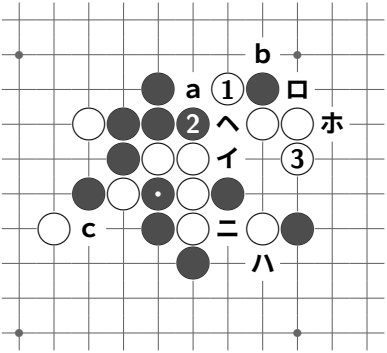
※ 初手で 3 は、白 a と止められます。



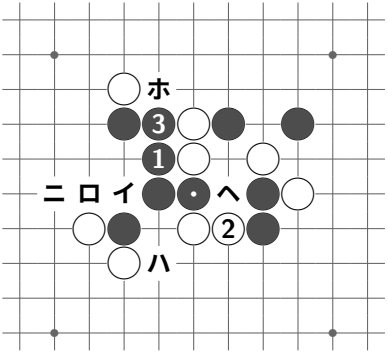
【問 3-25：白先】四三を打つと負けます。



【問 3-26：黒先】ノリ手防ぎの存在に注意しながら攻めます。

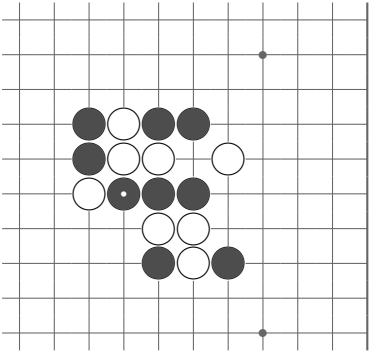


【問 3-25】白 3 後、(イロ) の四三勝ち。黒イの四ノビは (ハニホ) が残るため無効。黒 2 で a の四ノビ後の b または c (2 止めは a の四ノビが無意味) は、(2 へ) の四三勝ち。

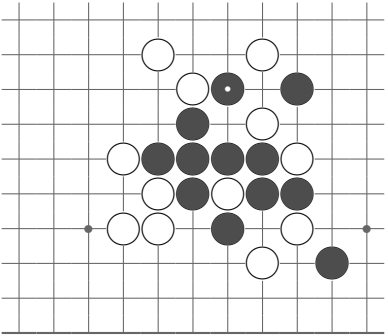


【問 3-26】黒 3 後、(イロハ) または (イニホ) の四三勝ち。白 2 で反対は、(2 へ) の四三勝ち。

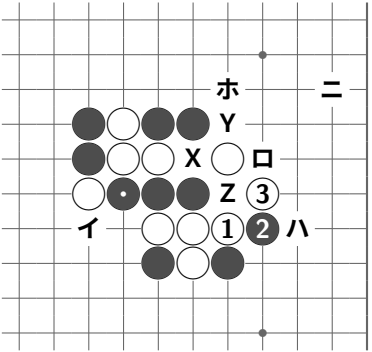
※ 初手で 2 は、白 1 と止められます。3 でホやハは、白 3 と止められます。



【問 3-27：白先】黒の剣先は無視できません。

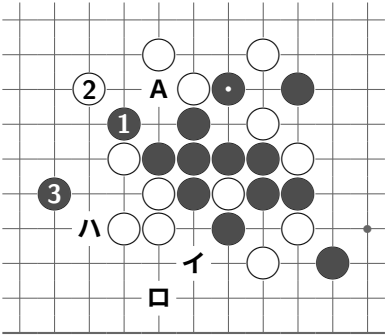


【問 3-28：黒先】『三剣あって…』と言います。少し離れていますが、四剣あります。剣先のつながり具合を追っていくのも 1 つの考え方です。



【問 3-27】白 3 後 (イロ) (黒 2 が反対の場合は (ハロ)) で X 点三々禁。黒 2 で 3 の四ノビ後に三を止めるのは、((イ) ロニホ) で Y 点四々禁。

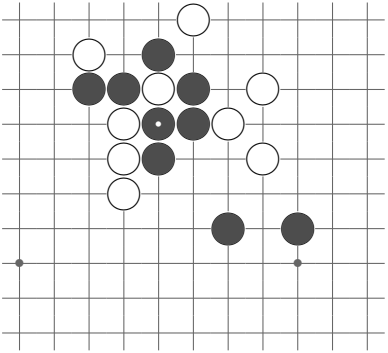
※ 白 3 から直ちに (イロ) は、Z 点が四々のため否三々禁 (白 3 は禁点逆用の禁手逃れを消す事前工作の手)。



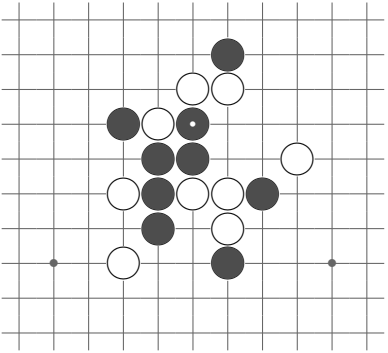
【問 3-28】黒 3 後、A または (イロハ) の四三勝ち。

黒 3 は石集団から離れた場所にありますが、上下の剣先を結ぶ焦点になっています。

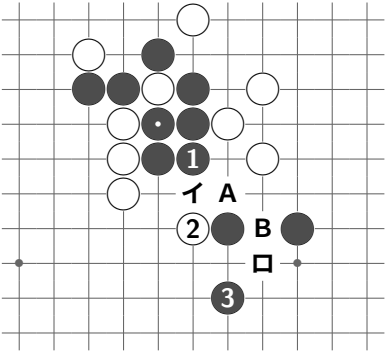
黒 1 の四ノビは必要で、他の四ノビをすると勝てなくなります。



【問 3-29：黒先】決定打は気付きにくいかもしれません。



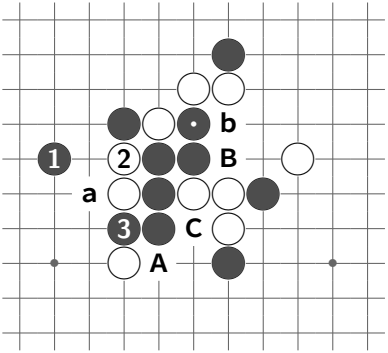
【問 3-30：黒先】三々禁を狙われています。



【問 3-29】黒 3 後、A または (イロ) の四三勝ち。白 2 で他は、B の四三勝ち。

途中で四ノビをすると勝てなくなります。

※ 初手で B は、白 2 と止められます。

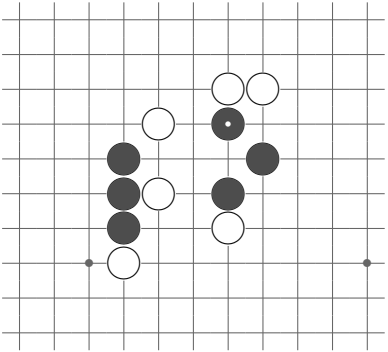


【問 3-30】黒 3 後、A の四三勝ち。白 a や b の四ノビは、別の三ができ無効。白 2 で他も同様、または (2 B)。

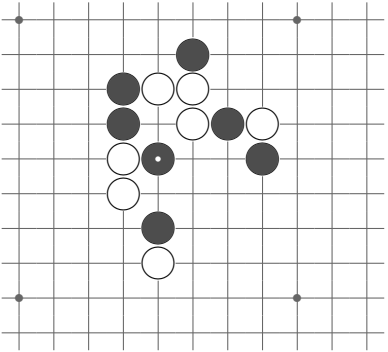
白 2 を b として黒に B と打たせても、横が長連筋のため三でなく否三々で、2 の点の四三は残ったままです。

※ 初手で C は白 2 です。

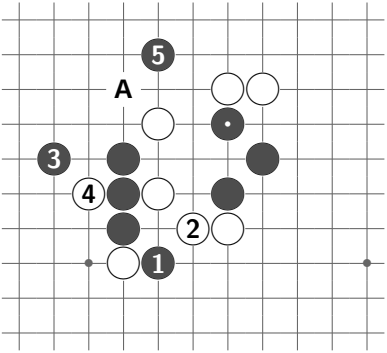
4　長めの詰連珠



【問 4-1：黒先】トンで……。

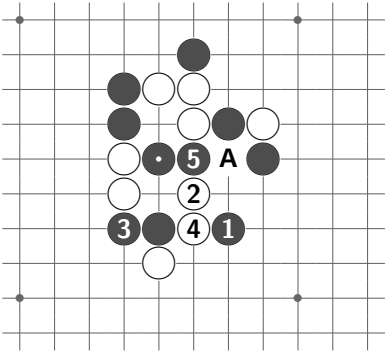


【問 4-2：黒先】トビ三をうまく使います。



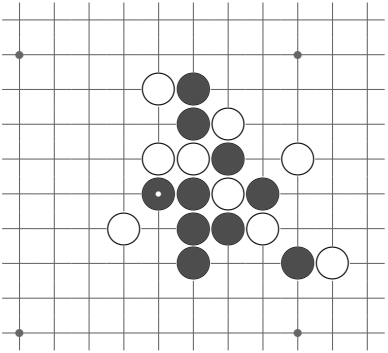
【問 4-1】黒 5 後、A の四三勝ち。
白 2・4 で他も同じ。

勝ちとなるのはこの手順だけです。

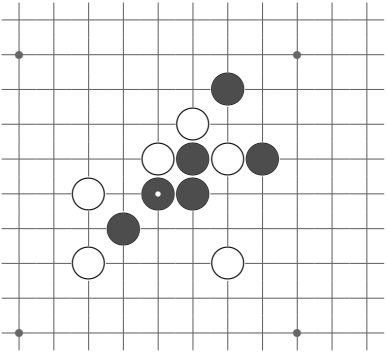


【問 4-2】黒 5 後、A の四三勝ち。
白 2・4 で他も同じ。

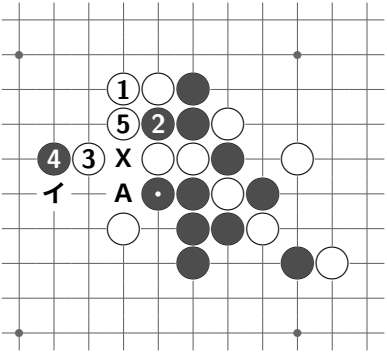
四での防ぎを恐れない黒 3 が気付きにくい好手です。



【問 4-3：白先】禁手筋が見えています。

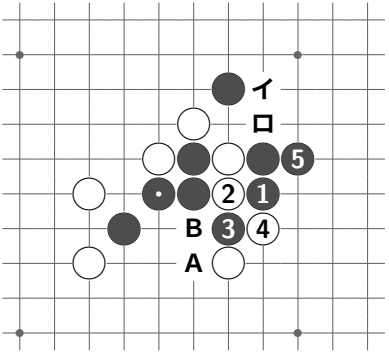


【問 4-4：黒先】三・四三はノラれていますが…。



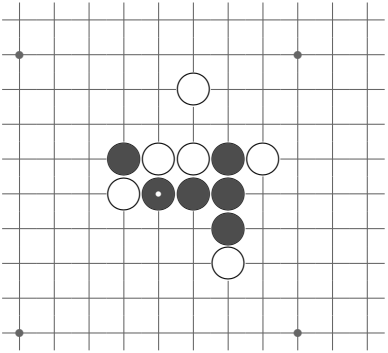
【問 4-3】白 5 後、A で X 点三々禁。黒 4 で他は、(X 5 (イ)) で四三勝ち、またはノリ押さえ達四勝ち。

※ 白 3 で 5 は、黒 A と打たれ逆転です。

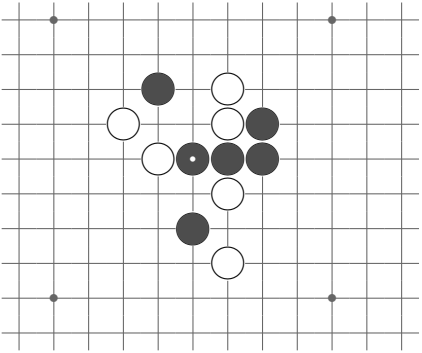


【問 4-4】黒 5 後、(イロ) の四三勝ち。白 4 で他は、イ、または ‘A 後 B’ の四三勝ち。白 2 で他は、イの四三勝ち。

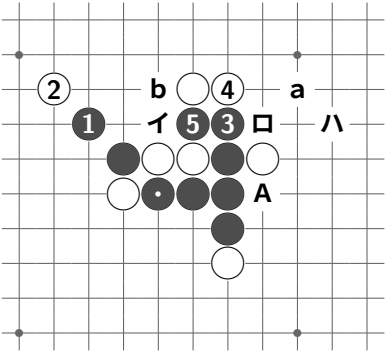
※ 黒 3 でイとしてから 3 と打つのは、白ロで三になり失敗です。



【問 4-5：黒先】ノリ手を避けるように打ちます。

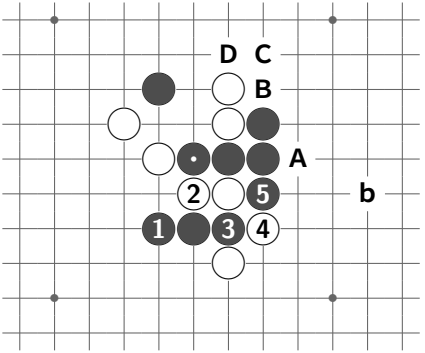


【問 4-6：黒先】禁手を打たないように手順の妙で進めます。手筋らしい手には白に妙手があります。



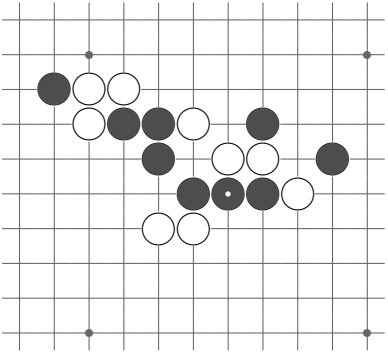
【問 4-5】黒 5 後、A または (イロ) の四三勝ち。白 2 で他も同じ。

※ 初手からのロ・5 は白 a・b と、初手あるいは 3 で 5 は白 3 と防がれます。初手で、あるいは黒ロ・白 a 後にハと打つのは、白 3 と防がれます。

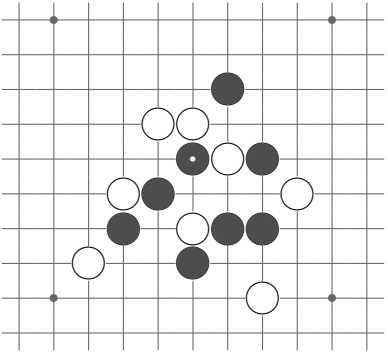


【問 4-6】黒 5 後、A の四三勝ち。白 4 で他は 4 の、白 2 で他は 2 の四三勝ち。

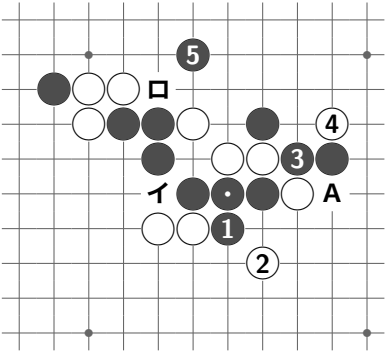
※ 初手から B (または C)・白 5・D とするのは、白 b の好手で逆転です。



【問 4-7：黒先】グルッと。

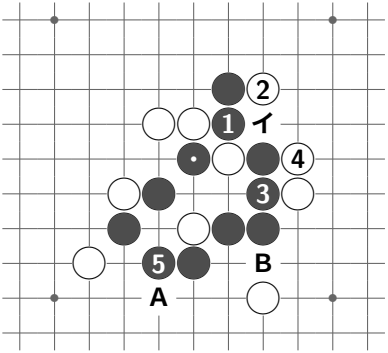


【問 4-8：黒先】四追いはノラれています。



【問 4-7】黒 5 後、(イロ) の四三勝ち。白 4 で他も同じ (または A 後 4)。

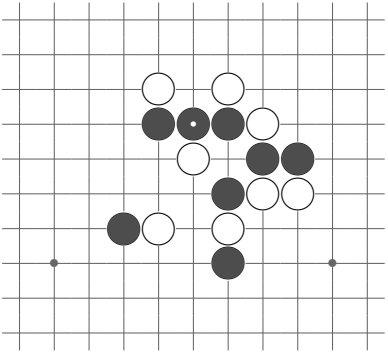
※ 初手でイ、3 あるいは 5 とすると、勝てなくなります。



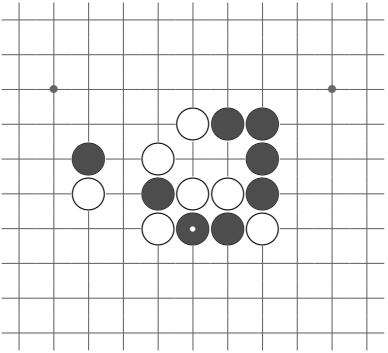
【問 4-8】黒 5 後、A または B の四三勝ち。白 4 で反対は、(イ 4) の四三勝ち。

＃ 白に 2 の点に打たせることで、3 に打てるようにしています。

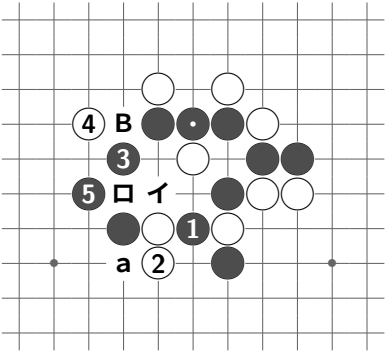
※ (2 3) の四追いはノラれます。



【問 4-9：黒先】技あり、という感じでの勝ち方です。

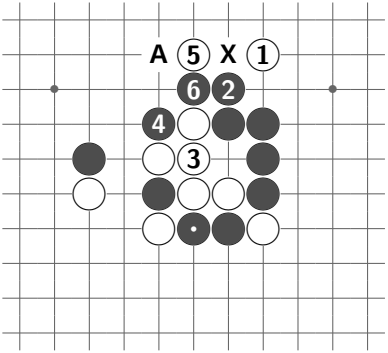


【問 4-10：白先】派手な手はありませんが、読みにくいかもしれません。



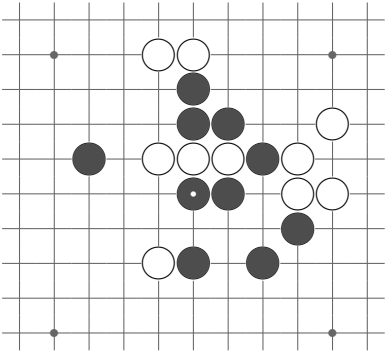
【問 4-9】黒 5 後、(イロ) の四三勝ち。白 4 で他は、B の四三勝ち。白 2 で反対は、5 後 ‘2 または (4 3)’ の四三勝ち。

※ 5 でロは、白 a に止められます。

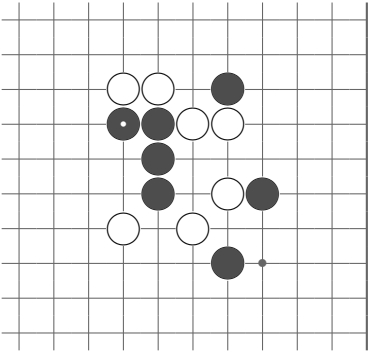


【問 4-10】黒 6 と打たせ、黒の三を止める A にて X 点三々禁。黒 4 で反対は、(4 6) の四三勝ち。黒 2 で他は、四ノビで 2 の点に打たせます。

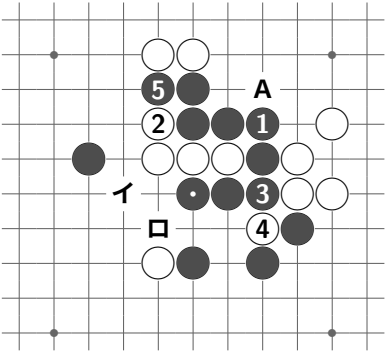
※ 初手で 3 は、黒に 1 の点に四ノビで先着されます。



【問 4-11：黒先】四三ができそうな場所は見えています。

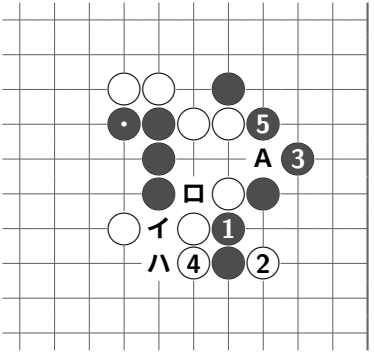


【問 4-12：黒先】巧みな打ちまわしです。



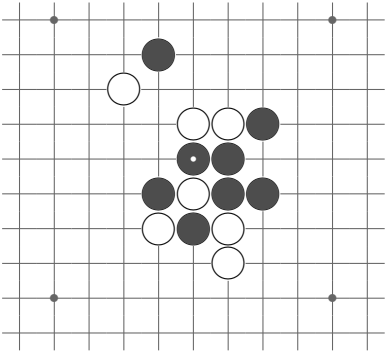
【問 4-11】黒 5 後、A の四三勝ち、または (イロ) のノリ切り達四勝ち。
白 2 で他は、(3 イ) の四三勝ち。白の四ノビは無効。

※ 黒 5 でイは、四々でノラれての負けです。

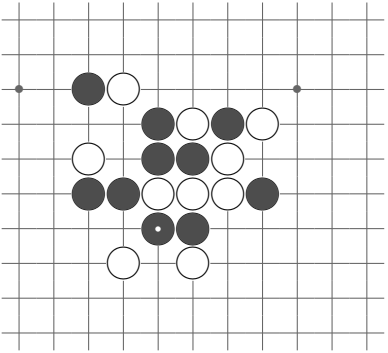


【問 4-12】黒 5 後、(イロ) の四三勝ち。白ロの四ノビは A に四三ができ、無効。白 4 で反対も同じ。白 2 で他は、(2 ハ) または '4 後ハ'。

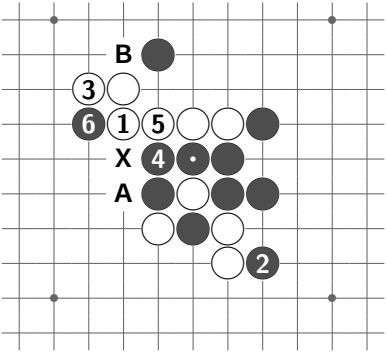
黒 1 が白 2 を強制する好手で、残ったロの剣先をうまく利用します。



【問 4-13：白先】禁手狙いですが、どの禁手でしょうか。

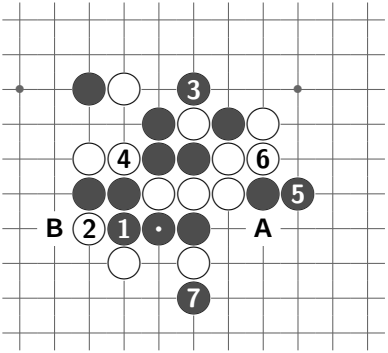


【問 4-14：黒先】盤全体を見ます。



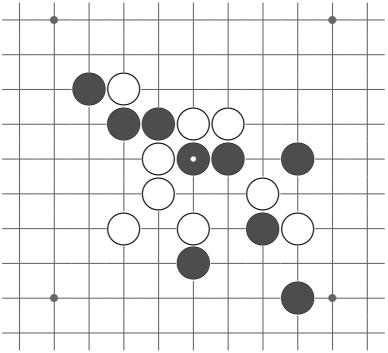
【問 4-13】黒 6 と打たせ、A または B にて X 点四々禁。黒 2 で 3 は、A 後 4 の四三勝ち。黒 2 で 4 は、図と同様。

※ 初手で 4 は、黒 2 と止められます。

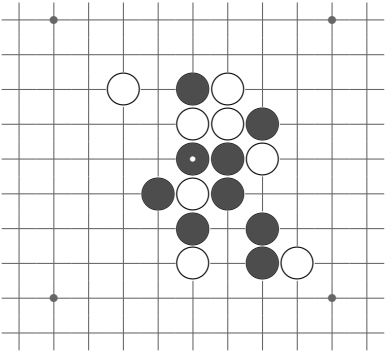


【問 4-14】黒 7 後、A の四三勝ち。白 4, 6 で他も同じ。白 2 で反対は、B の四三勝ち。

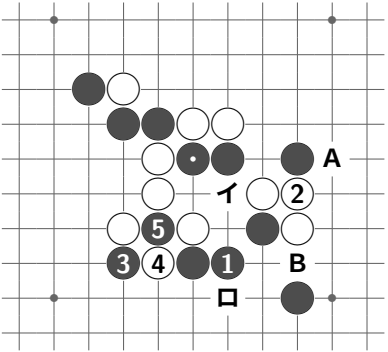
三をヒイていくだけですが、この順でないと勝てません。



【問 4-15：黒先】両ミセで終わり、ではありません。

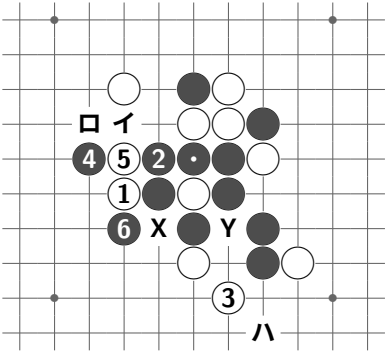


【問 4-16：白先】容易に三々禁、というわけにはいきません。



【問 4-15】黒 5 後、(イロ) の四三勝ち。白 4 で他も同じ。白 2 で他は、A または B の四三勝ち。

＃ 黒 3 は、白に 2 ヶ所の四三の点を作らせるもので、気付きにくいかもしれません。

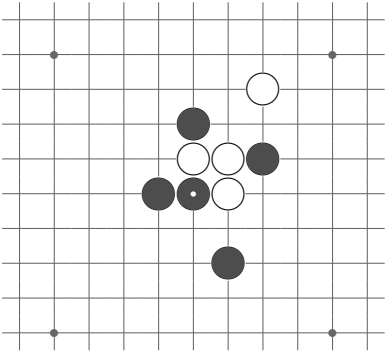


【問 4-16】白 7 から (イロハ) で X 点四々禁。黒 6 と 4 で他は、容易に X 点三々禁。黒 2 で他は、イ後 2 の四三勝ち。

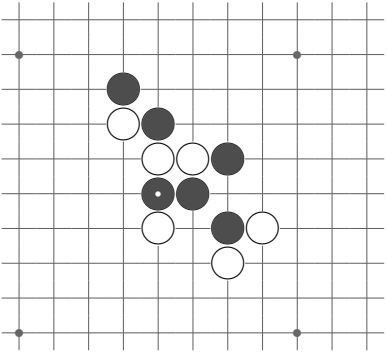
※ 白 3 で 4 は、黒 3 と止められます。黒 X は、Y 点四々のため否三々です。

＃ 白 3 は、黒の四三をノッています。

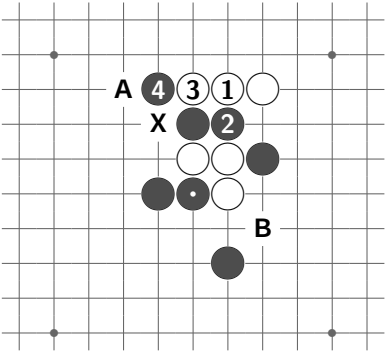
5　序盤の詰連珠



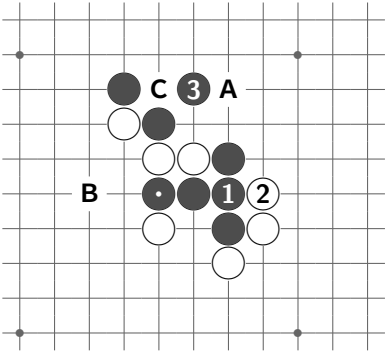
【問 5-1：白先】狙いをつけて…。



【問 5-2：黒先】止め方に応じて…。

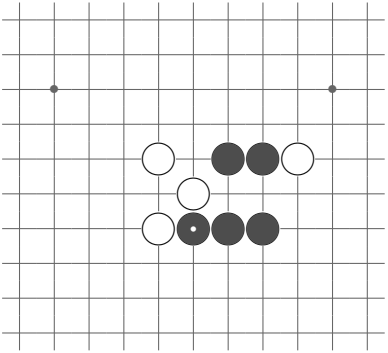


【問 5-1】白 3 で黒 4 と打たせ、A または B にて X 点三々禁。黒 4 で反対は、A の四三勝ち。黒 2 で他は、四ノビで 2 の点に打たせ、以下同様 (あるいは、A とトビ三を打って四追いで 2 点三々禁)。

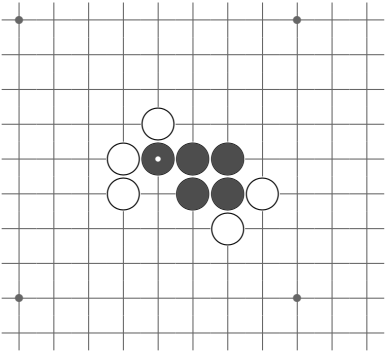


【問 5-2】黒 3 後、A または B の四三勝ち。白 2 で反対は、C 後 A または 2 の四三勝ち。

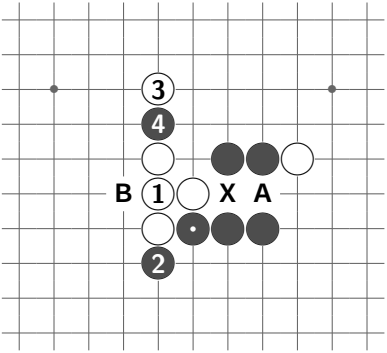
黒 1 の三をどちらに止めても両ミセの勝ちとなる問題でした。



【問 5-3：白先】好形の黒を咎めて下さい。

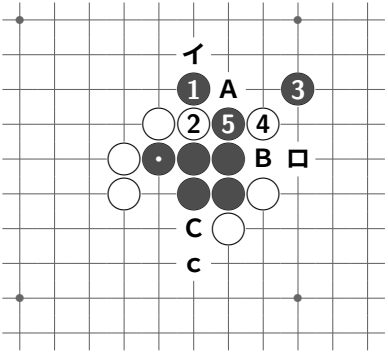


【問 5-4：黒先】‘三・四三’はノラれます。



【問 5-3】白 3 で黒 4 と打たせ、A または B で X 点四三々禁。黒 2 で反対は、A または B で X 点三々々禁。

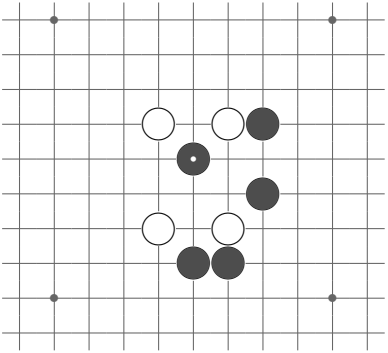
＃ 機敏な四ノビが好手でした。



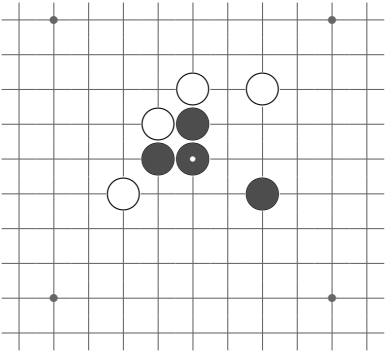
【問 5-4】黒 5 後、A または B の四三勝ち。白 4 で他も同じ。白 2 で C は ‘4 後 (イロ)’、イは (B C) の四三勝ち。

※ 初手で C は、白 c と止められます。

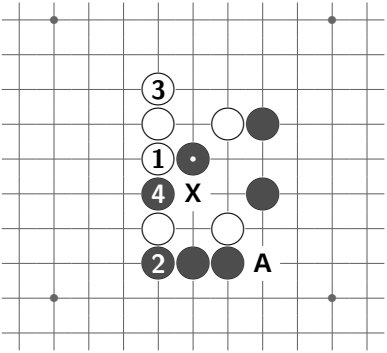
＃ 1・3 の手順前後は可能。



【問 5-5：白先】禁手狙いでの 1 つの手筋です。

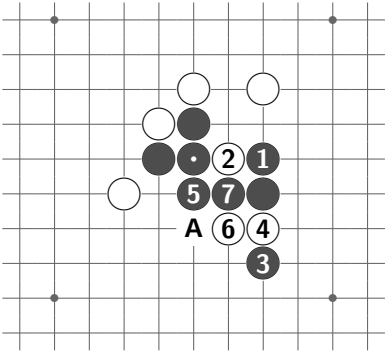


【問 5-6：黒先】シンプルに攻めていきます。



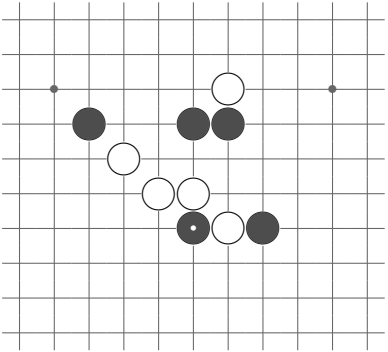
【問 5-5】黒 4 と打たせ、A で X 点三々禁。黒 2 で他は、直ちに、または四で黒 4 と打たせ、同様の三々禁。

＃ 三でノラれても四で三々の禁点を作り、三を止めつつの禁手狙いです。

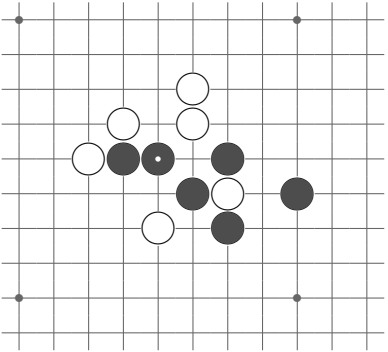


【問 5-6】黒 7 後、A の四三勝ち。白 4・6 で他も同じ。白 2 で他は、2 の四三勝ち。

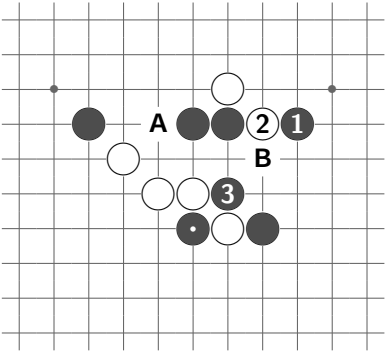
6　ひとめの詰連珠



【問 6-1：黒先】トビます。

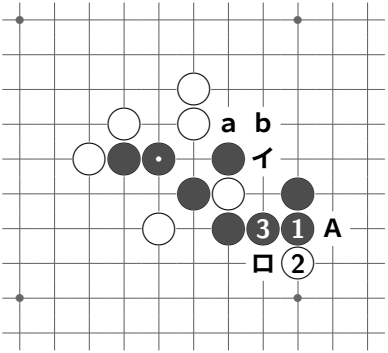


【問 6-2：黒先】防ぎに応じて…。



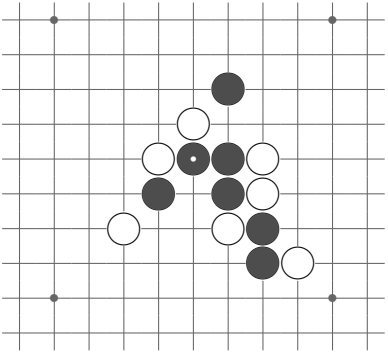
【問 6-1】黒 3 後、A の四三勝ち。
白 2 で他は、B 後 2 の四三勝ち。

四三の場所を A と 2 の点に残す 1 のトビ三が好手。

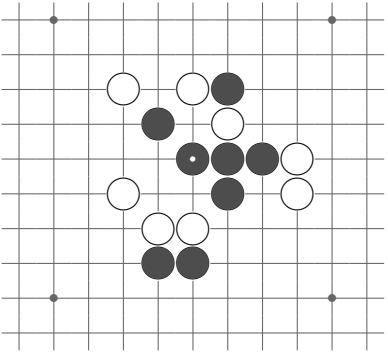


【問 6-2】黒 3 後、(イロ) の四三勝ち。
白 2 で他は、同じ、または A 後イ。

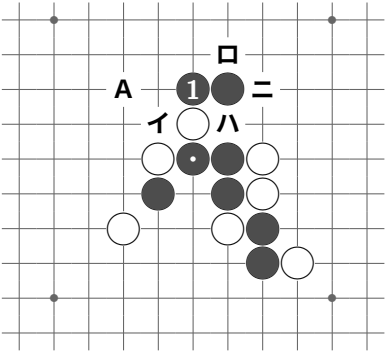
※ 初手で A は白 a、3 は白 b と防がれます。



【問 6-3：黒先】ひとめの好手があります。

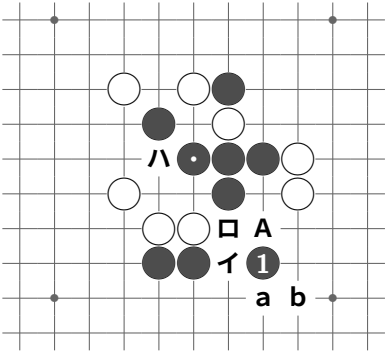


【問 6-4：黒先】2 つの剣先をうまく利用します。



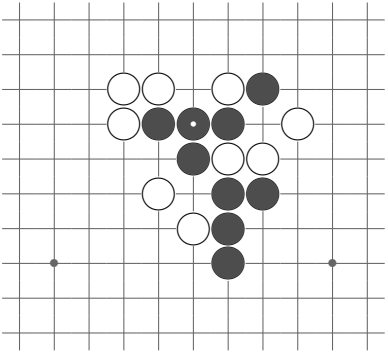
【問 6-3】黒 1 後、A、(イロ)、または (ハニ) の四三勝ち。

※ 最初に四ノビをすると勝てなくなります。

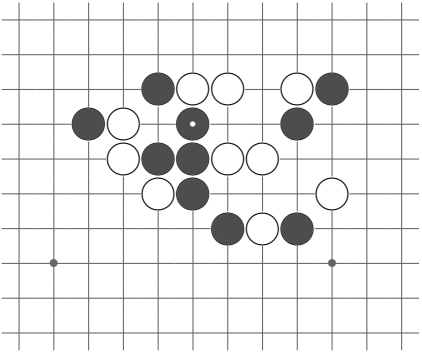


【問 6-4】黒 1 後、A または (イロハ) の四三勝ち。

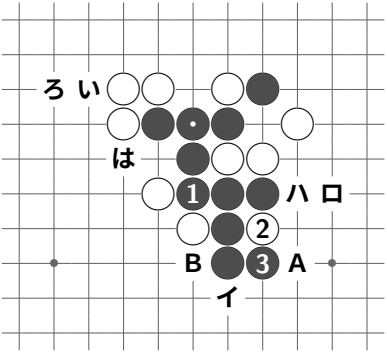
※ 初手ロには白イで、次の黒 1 の両ミセには白 a または b と防がれます。



【問 6-5：黒先】白の形を見て黒先問題とあれば、“ひとめ” でしょう。



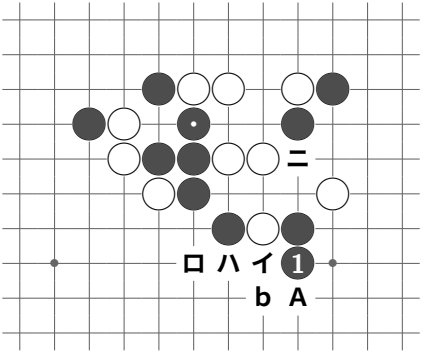
【問 6-6：黒先】いくつかの勝ち方を狙える場所というと…。



【問 6-5】黒 3 後、(イロ) の四三勝ち。

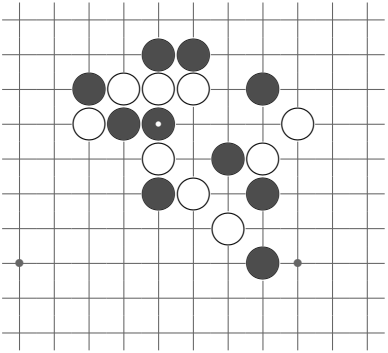
問題図では白に (いろは) の四追いがあります。黒 1 はそれをノリつつ (2 ハ) をフクム好手です。

(2 ハ) を防ぐ他の白 2 では、同じ、または 3 後 A (B 後 A も可)。

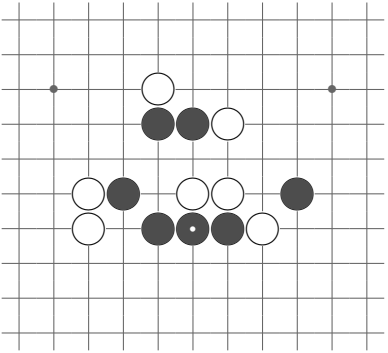


【問 6-6】黒 1 後、A、(イロ (ハ)) または (ロニ) の四三勝ち。

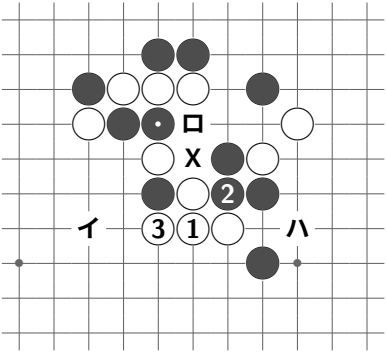
白には A, a, b 等の防ぎがありますが、その対応まで読んで勝ちを確認したいところです。



【問 6-7：白先】白と黒の形から何かが浮かび上がってきてほしいものです。

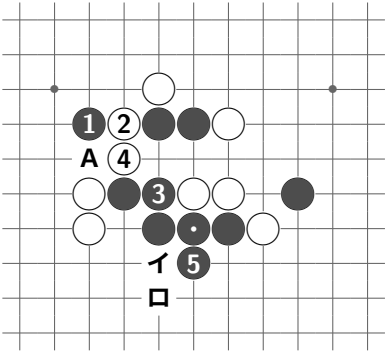


【問 6-8：黒先】初手の好手が光ります。



【問 6-7】白 1・3 が好手順で、(イロ) または (ハロ) で X 点四々禁。黒 2 で他も白 3 として、同様の四々禁。

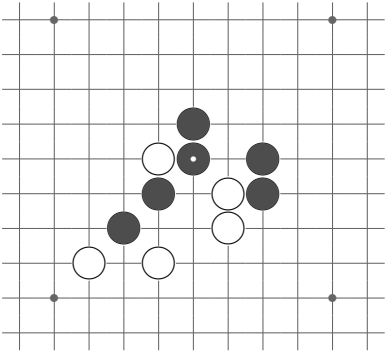
＃ 白 1 のトビ三後の形は、X 点の四々禁を思い浮かべさせてくれます。



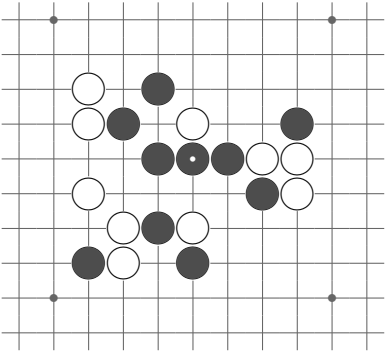
【問 6-8】黒 5 後、(イロ) の四三勝ち。白 4 で他は同じ。白 2 で他は、同じ、または 4 後 2 の四三勝ち。

※ 初手で A は、白 5 と止められます。

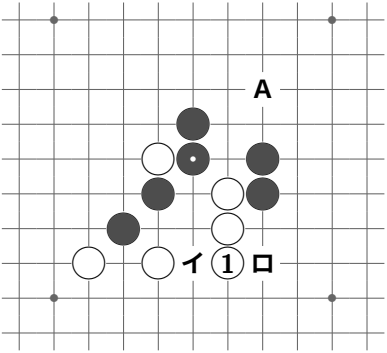
7　逆転の詰連珠



【問 7-1：白先】黒の四三を素直に防いでいると負けそうです。

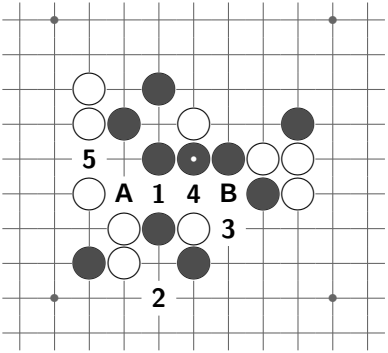


【問 7-2：黒先】四三々禁を狙われています。四追いがありますが、白のノリ手のある四三では失敗です。



【問 7-1】白 1 後、(イロ) の四三勝ち。

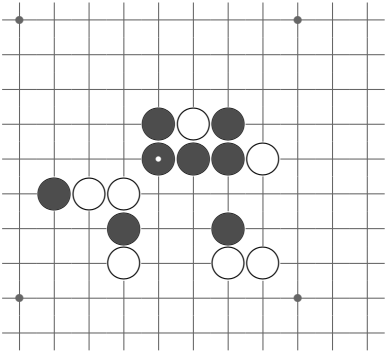
黒 A の四三は白 1 でノッています。



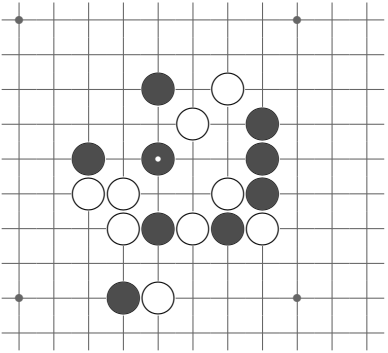
【問 7-2】黒 1〜5 の四追いで四三勝ち。

A 点四々のため、黒 5 は四三々でなく四三です。

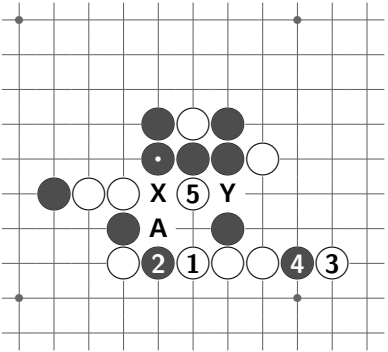
※ 1〜4 後の A や B も四三ですが、ノラれています。



【問 7-3：白先】黒は三をヒキ、2 ヶ所で四三を狙っています。

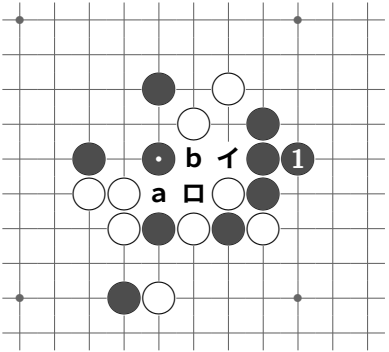


【問 7-4：黒先】かなり危険な状況ですが、一発逆転です。



【問 7-3】白 5 にて X 点と Y 点との二重の四々禁での白勝ち。

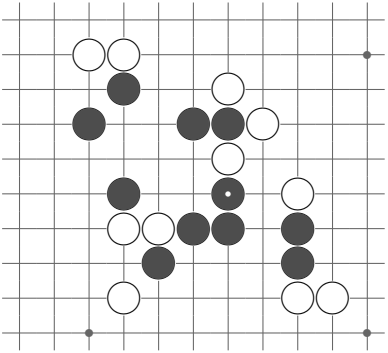
黒には A 点に四三がありますが、怖くありません。



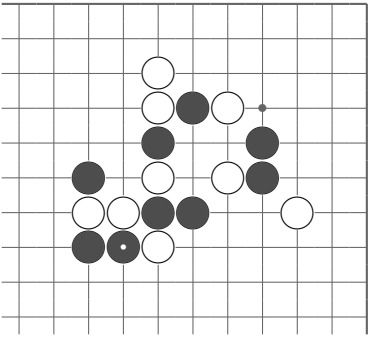
【問 7-4】黒 1 後、イの四三勝ち、または (イロ) のノリ切り達四勝ち。

黒 1 と打った時に白 a でロ点が三々禁のようですが、イ点が四々のためイを通る斜めは三でありません。

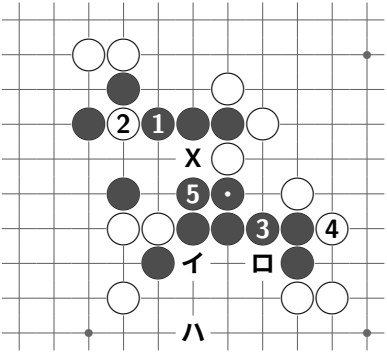
※ 初手で a や b から始めると、(いずれ) 白 1 と打たれ、勝てなくなります。



【問 7-5：黒先】三々禁を狙われています。作り物ですが、こんな逆転劇もあり得ます、という例です。

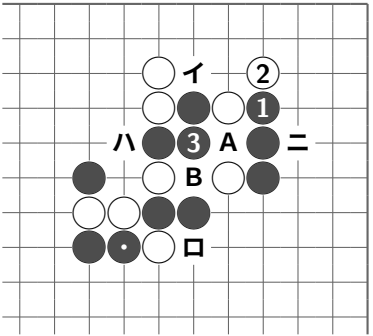


【問 7-6：黒先】白の四三の点が黒の三々禁の点になっていますが、不思議な手筋で勝ちを作り出して下さい。



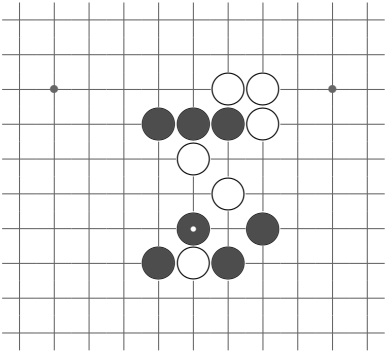
【問 7-5】黒 5 後、(イロハ) の四三勝ち。

＃ X 点が長連禁で打てませんので、縦は三でなく、黒 5 は横だけの三です。

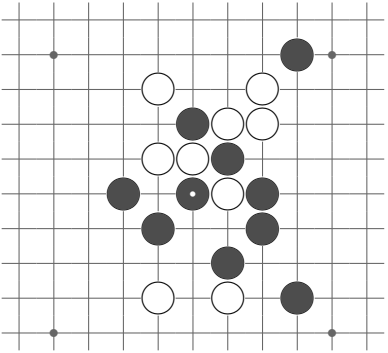


【問 7-6】黒 1 と白の四三をノリます。A・B 両点が四々になるため黒 3 は三ですらないけれど、次にイ、ロ、ハあるいはニに四を打つと、他方のウソの三が本物の三に昇格し、異焦点の四三ができます。白 2 で反対も同じです。

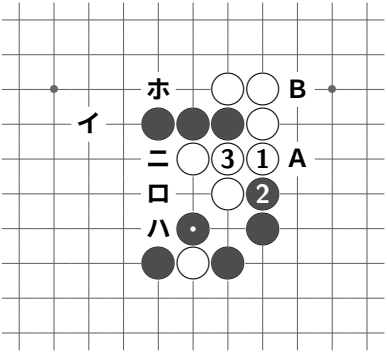
※ 初手で 2 は、白 1 で勝てません。



【問 7-7：白先】黒には四追いがあり、好形でもあります。

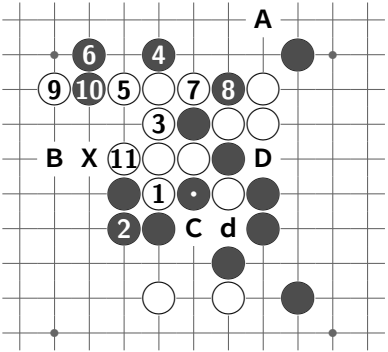


【問 7-8：白先】黒は好形の上に四追いが残っています。逆転して下さい。例外的に長めの解となる問題ですが、変化はほとんどありません。



【問 7-7】白 3 後、A の四三勝ち、または B の三々勝ち。黒 2 で他は、A の三々勝ち。黒の四ノビは無効。

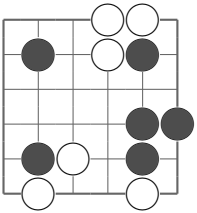
＃ 黒の (イロハ) の四追いを白 1 の三でノッており、黒 2 で (イロニホ) の四追いができますが、白 3 はそれを防ぎつつの三です。



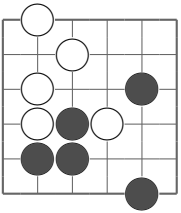
【問 7-8】白 1〜9 と四ノビし、11 と黒の四追いをノリながら三々を作ります。黒 C としても、A の四三、B の X 点三々禁が残っています。

※ 初手で C や D も防ぎつつのフクミ手ですが、C には黒 X、D には黒 d の好手があります。

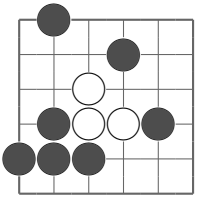
8　六路の詰連珠



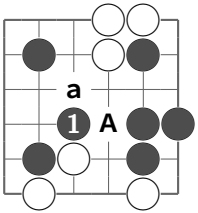
【問 8-1：黒先】
2 種類の ‘三・四三’ がありそうですが…。



【問 8-2：黒先】
ノラれて失敗の場合もあれば、ノラれても構わない場合があります。

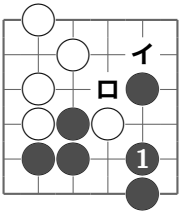


【問 8-3：黒先】
四を作る筋が 2 つあり、これらを結び付けます。



【問 8-1】黒 1 後、A の四三勝ち。

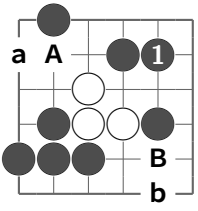
※ 初手で A は、白 a と止められます。



【問 8-2】黒 1 後、イの四三勝ち、または (イロ) のノリ切り達四勝ち。

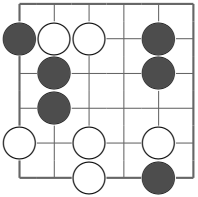
＃ 白 2 では右止めが強防になります。

※ 初手でイは白ロと止められ、次の 1 の四三には白のノリ手のため、黒は勝てません。

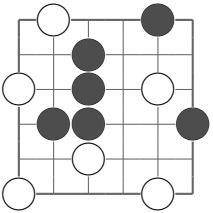


【問 8-3】黒 1 後、A または B の四三勝ち。

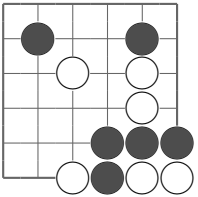
※ 黒 A・1 とすると 1 の時に a と止められ、B・1 とすると 1 の時に b と止められ、いずれも白のノリ手になります。



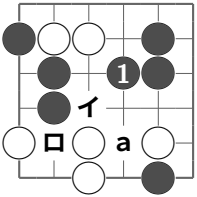
【問 8-4：黒先】
白の 2 つの剣先が邪魔のように見えます。



【問 8-5：黒先】
初手が好手です。

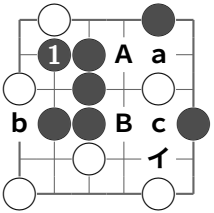


【問 8-6：黒先】
白の四での防ぎをうまくかわす攻め方をします。



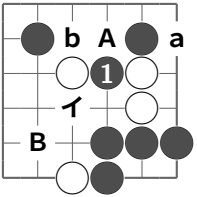
【問 8-4】黒 1 後、(イロ) のノリ切り達四勝ち。白ロや a の四ノビは、黒に別の四や三ができ、無効です。

白の剣先を恐れない三ヒキが好手でした。



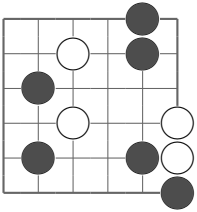
【問 8-5】黒 1 後、A または B の四三勝ち、あるいは (B イ) のノリ切り達四勝ち。

白の強防は、a です。
※ 初手で A や B の四ノビをすると勝てなくなります。

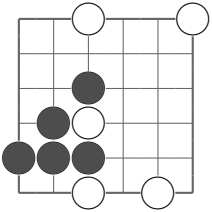


【問 8-6】黒 1 後、A または B の四三勝ち、あるいは (B イ) のノリ切り達四勝ち。

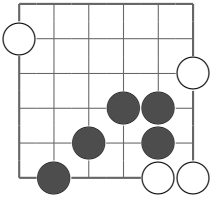
白の強防は b です。
※ 初手で A は白 a と止められ、次の (B 1) は白のノリ手で失敗です。



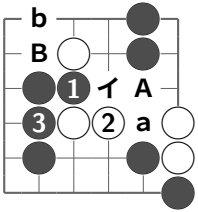
【問 8-7：黒先】
白の防ぎ方への対応もしっかりと。



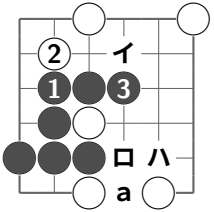
【問 8-8：黒先】
三・四三ではありません。



【問 8-9：黒先】
白に剣先のできる防ぎがあるので、考えにくい問題です。

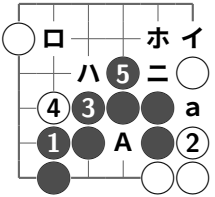


【問 8-7】黒 3 後、A の四三勝ちまたは (A イ) のノリ切り達四勝ち。白 2 で 3 は (2 A) の四三勝ち、a は (B 3) のノリ押さえ達四勝ち、b は (A イ) のノリ切り達四勝ち、他は A または B の四三勝ち。



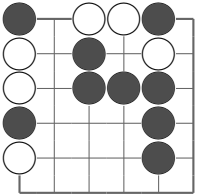
【問 8-8】黒 3 後、(イロ) の四三勝ち。白 2 が他は、(2 ハ) の四三勝ち。

※ '2 後ハ' は白にノリ手があります。

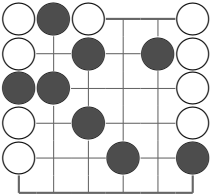


【問 8-9】黒 5 後、A の四三勝ち。白 4 で a は、(イ 4 ロハ) の四三勝ち。白 2 で他は、3 後 (ニホ) の四三勝ち。

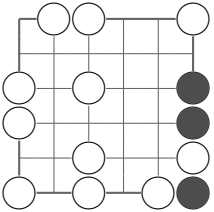
＃ 1・3 の手順前後は可能。



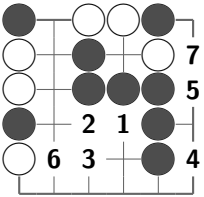
【問 8-10：黒先】
2019 年に因んだ文字型四追い問題です。



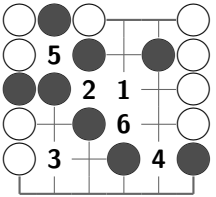
【問 8-11：黒先】
令和改元を記念しての“R1” 文字型四追い問題です。



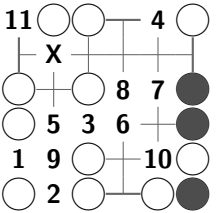
【問 8-12：白先】
四追い問題です。



【問 8-10】黒 1〜7 での四三勝ち。



【問 8-11】黒 1〜6 での四三勝ち。



【問 8-12】白 1〜11 にて X 点長連禁。

＃ 長連禁を作った時点で盤面が石で埋まる “完全案” です。

著者紹介：真野（まの） 芳久（よしひさ）

1948 年　愛知県に生まれる

1968 年　大学連珠部に入部、京都連珠会に入会

1975 年　五段昇段

2009 年　30 年の休珠後に棋戦参加を再開

2013 年　第 51 期名人戦 A 級リーグに東海地区代表として出場

2015 年　公益社団法人日本連珠社の理事に就任 (2016 年 副理事長)

「連珠の基礎」等のフリーの pdf 連珠書籍を東海連珠会ホームページで公開

珠々の詰連珠 (3)

2019 年 8 月 1 日

著者：真野 芳久

ga28735@gk2.so-net.ne.jp

発行：東海連珠会